



書官



案

年

月

日

石川書官

東北久縣経海部長宛

東北地方食糧増産懇談会ニ関スル件

二月七日付ノ以テ得度意候標記ノ件ニ関シ奉旨ノ懇談会

関係次第ハ大体別紙ノ通ニ有之候事由合ニ付テ有テ奉

Vertical text on the right side of the page, possibly a list or index.



上出冬會相飲度此故申進候
連三番日八所向一却合上正午台二所向合可致三付度到出冬
東斐度為念了候

内閣東甲第三八號ノ願

昭和十六年二月十四日

内閣東北局 石川書記官

東北六縣經濟部長 宛

東北地方食糧増産懇談會ニ關スル件

二月七日附内閣東甲第三八號ヲ以テ得貴意候標記ノ件ニ關シ當日ノ懇
談會開催次第ハ大體別紙ノ通ニ有之候條御含ミノ上御參會相煩度此段
申進候

追テ當日ハ時間ノ都合上正午後二時開會可致ニ付定刻御參集相成度
爲念申添候

内閣

25 1917.2.14

14

裏面白紙

裏面白紙

東北地方食糧増産懇談會

昭和十六年二月二十日(木曜日)
於 上野増善軒

開會順序

- 一、開會挨拶 内閣東北局長(車長)
- 一、農林省關係 演述

農産課長
餅地課長
農事試験場長

- 一、質疑應答
- 一、各縣ノ希望意見開陳 宮城、福島、山形各縣十五分以内)
- 一、質疑應答
- 一、東北興業會社 副總裁
- 一、各縣ノ希望意見開陳 (岩手、青森、秋田各縣十五分以内)
- 一、質疑應答
- 一、閉會 (午後六時頃)

備考 正午後二時開會
懇談會終了後晚餐

内閣

甲 三八

16 2 7

考 二 七
十 二 七

考 二 七

局長

書記官



案

年 月 日

内 閣 東 北 局 長

東 北 地 方 知 事 光

東北地方食糧増産懇談會ニ関スル件

時局下最モ重要ナル食糧増産ニ関シ其ノ徹底ヲ期スル意味ニ
於テ今級別然要綱ニ依リ懇談會開催致シ候ニ就テ此縣務



中上ハ存シ候ハ英國係官ニ出席セシメラレ度此致及申添候也
追テ準備ノ都合之為ニ未ルニ月十七日迄ニ出席名簿式名簿回報相成度
申添候

第ニ系

年 月 日
内閣東北局長
農林省農政局長

東北地方食糧増産懇談会開催ノ件

東北地方ニ於テ食糧増産ニ関シ其ノ徹底ヲ期スル意味ニ於テ
今般別或要綱ニ依リ懇談会開催致^度候ニ就^テ仰^付候上
申候ハ英國係官ノ出席ノ方由配意相成度申候及申添候也

裏面白紙

内閣東甲第三八號

昭和十六年二月七日

内閣東北局長 宇都宮 孝 平

東北六縣知事 宛

東北地方食糧増産懇談會ニ關スル件

時局下最モ緊要ナル食糧（米麥）増産ニ關シ其ノ徹底ヲ期スル意味ニ於イテ今般別紙要綱ニ依リ懇談會開催致シ候ニ就テハ御繁務中トハ存ジ候ヘ共關係官ヲ出席セシメラレ度此段及御依頼候也

追テ準備ノ都合モ有之來ル二月十七日迄ニ出席者職氏名御回示相煩度申添候

裏面白紙

内閣東甲第三八號

昭和十六年二月七日

内閣東北局長 宇都宮 孝平

農林省農政局長 岸 良一 殿

東北地方食糧増産懇談會開催ノ件

東北地方ニ於ケル食糧（米麥）増産ニ關シ其ノ徹底ヲ期スル意味ニ於
イテ今般別紙要綱ニ依リ懇談會開催致度候ニ就テハ御贊同ノ上御業務
中トハ存ジ候ヘ共關係官ノ出席方御配意相煩度此段及御依頼候也
遣テ準備ノ都合モ有之來ル二月十七日迄ニ出席者職氏名御回示相煩
度申添候

内閣

内閣東甲第三八號

昭和十六年二月七日

内閣東北局長 宇都宮 孝平

農林省農事試験場長 寺尾 博 殿

東北地方食糧増産懇談會開催ノ件

據テ得費意候標記ニ關スル件今般別紙要綱ニ依リ開催致度候ニ就テハ
御繁務中トハ存ジ候へ共關係官御同行御出席相煩度此段及御依頼候也
追テ準備ノ都合モ有之出席關係官ノ氏名二月十七日迄ニ御回示相煩
度申添候

裏面白紙

道々準備、却今又自之来、有十七、是之去年、名或、名由、回、手、相、取、手、取、

第三系

年 月 日

内商東北局長

農林省農事試験場長宛

東北地方食糧増産懇談会関係一件

豫々所費、意候、標記、三、四、五、件、今、取、別、試、要、糊、三、係、一、肉、僅、取、度、

候、三、就、三、三、取、算、務、中、上、存、日、候、一、共、官、係、官、出、同、出、出、出、相、取、度、

此、取、及、出、取、候、候、也、

是、三、準備、却、今、又、自、之、去、年、南、係、官、一、名、有、十、七、是、之、去、年、回、手、相、取、手、取、

裏面白紙

繼續ノ主要題目ハ次ニ例示スル通り

〔一〕本年度東北地方ノ寒作ノ概況

〔二〕農狀ト言ハレル本年度ノ氣候ガ米作ニ及ボス影響ノ見込並ニ之ニ對スル措置

〔三〕米麥増産確保ヲ關ル上ニ於テ東北地方トシテ特ニ留意スベキ事項

〔四〕六縣ニ於テ特ニ増産確保ノ支障トナル點並ニ之ガ對策

〔五〕東北地方農民ノ作柄ニ關スル豫想（不安ヲ感じテキルカ）並ニ之ガ對策

右ノ題目ノ意見發表主要擔當者ヲ座長ニ於テ決定スルコト

六縣ノ出席者ニ地方事情説明ノ時間ヲ與フルコト

大日本帝國政府

昭
和
十
六
年
二
月
十
日
第
一
八
四
號

昭
和
十
六
年
二
月
十
日

甲
三
八
四

農
林
省
農
政
局
長

內
閣
東
北
局
長
宇
都
宮
孝
平
殿

東北地方食糧増産懇談会係官派遺申請件
標記、件、關、内閣東甲第三八號、以、依、賴、越、有、之、候、也、右、八、左、記、係、官、派、遺、
可、致、候、系、御、了、知、相、成、度、此、段、及、回、答、候、也、

記

農
産
課
長

木
林
課
長

耕
地
課
長

溝
口
三
郎

農
林
技
師

鷺
尾
久
藏

上
達
章

安
樂
林
敏
男

裏
面
白
紙

16. 2. 17
第 覽

北 甲 三 八 四 回

一六農式第一九四號

昭和十六年二月十五日

農事試驗場 長



內閣東北局長 殿

東北地方食糧増産懇談會開催ノ件

首題ノ件ニ關シ内閣東甲第三八號ヲ以テ御申越ノ趣了承當日小官

並左記ノモノ出席可致候條此段及回答候也

記

技師 鹽 入 松 三 郎 (肥料)

同 木 下 周 太 (害虫)

同 田 杉 平 司 (病害)

供覽

局

長

書記官



裏面白紙

16.2.17
第 覽

甲 三 八 号

農第一二二九號

昭和十六年二月十四日

宮 城 縣 知 事

内閣東北局長 殿

東北地方食糧増産懇談會ニ關スル件回答

本月七日附内閣東第三八號ヲ以テ御依頼越ニ係ル標記ノ件了承
仕リ職就テハ左記ノ通出席可致候條御了知相成度

記

經濟部長	有 松 昇
農務課長	前 田 弘
地方農林技師	古宇田 清 平 (主要食糧増産主任)

宮 城 縣

裏面白紙

16. 2. 17
第 一 覽

一六農第一八〇號

昭和十六年二月十五日

四 三八 号ノ四

内閣東北局長 殿

福島縣知事

東北地方食糧増産懇談會ニ関スル件

本月七日内閣東甲第三八號ヲ以テ御申越相成候標記
懇談會ニ左記者出席セシメ候条御了知相成度候也

農事試験場長 農林技師 赤田重雄

一 福 島 縣

16. 2. 18
第 2 号

秋收本農第四一號

昭和十六年二月十五日

秋田縣知事

内閣東北局長宇都宮 孝平 殿

東北地方食糧増産懇談會ニ關スル件

二月七日附内閣東甲第三八號ヲ以テ照會相成候標記ノ件本縣ヨリ左
記ノ通出席可致候條此段及同答候也

記

秋田縣經濟部長 大 麻 貫 一

秋田縣農事試驗場長 山 口 櫻 太 郎

秋田縣農林技師 小 林 虎 固

局長



書記官



訂正

訂正理由

撮影ミスのため

訂正箇所

直前の / コマ取消

/ コマ再撮影

訂正年月日 平成 15 年 8 月 26 日

このフィルムは、上記の理由で取消又は再撮影し訂正しました。

撮影者

内田 忠男

印

受託責任者

神奈川県南足柄市中沼210番地
富士写真フイルム株式会社
代表取締役 森 重隆

印



16. 2. 18
昭十六年二月十八日

秋收本農第四一號

昭和十六年二月十五日

秋田縣知事
内閣東北局長宇都宮 孝平 殿

東北地方食糧増産懇談會ニ關スル件

二月七日附内閣東甲第三八號ヲ以テ照會相成候標記ノ件本縣ヨリ左
記ノ通出席可致候條此段及回答候也

記

秋田縣經濟部長 大 麻 貫 一
秋田縣農事試験場長 山 口 巖 太郎
秋田縣農林技師 小 林 虎 固

局長

書記官

印

裏面白紙

昭和十六年二月十五日
第38號

青農産第二九八號

昭和十六年二月十五日

青森縣知事



内閣東北局長殿

局長

東北地方食糧増産懇談會ニ關スル件

二月七日附内閣東甲第三八號ヲ以テ申越相成候標記ノ件ニ關シ左記出席可致候ニ付此段及回報候也

記

青森縣農産課長

館野

覺治

青森縣農林技師

阿部

健吉

甲三八

青森縣

裏面白紙

15. 2. 19

局 仕

甲第 三八号

十六農 覽外

昭和十六年二月十七日

岩手縣知事 山内 義



内閣 東北局長 殿

長

書記官



東北地方食糧増産懇談會ニ關スル件
二月七日附内閣東甲第三八號ヲ以テ御申越相成候標記ノ件左記ノ通
派遣出席可致候條御了承相成候此致及同相候也

記

經濟部長 高橋良唐
地方農林技師 村井光吉

岩手縣

裏面白紙

16. 2. 16

局長

無號外

昭和十六年二月十七日

書記官

印

山形縣知事 山内 繼 喜

内閣東北局長 殿

東北地方食糧増産懇議會ニ關スル件

二月七日附内閣東甲第三八號ヲ以テ御來照ノ標記懇議會出席者左記ノ通りニ有之候條此段及回答候也

記

農水産課長	地方事務官	大久保 豊太郎
食糧増産主任	地方農林技師	市川 岩藏
農事試験場長	全	佐本 榮次郎

山形縣

裏面白紙

東北地方食糧増産懇談會

開催次第

(昭和十六年二月二十日
於 上野精養軒)

一、開會挨拶 内閣東北局長

一、農林省關係 演述 農産課長

農事試験場長

耕地課長

一、質疑應答 宮城、福島、山形ノ各縣

一、質疑應答 副 裁

一、東北興業株式會社 岩手、青森、秋田ノ各縣

一、各縣ノ希望意見開陳

一、質疑應答 (午後六時頃)

一、閉會

備考 懇談會終了後晚餐

生産ト價格ノ關係例

	甘蔗 (南部)	南瓜 (黒栗)	馬鈴薯 (三四類)
○ 生産地ニ於ケル生産ト價格ノ關係	六月末收穫 十月末收穫 藥劑散布 2回 除草 2回 150俵(1俵6貫入)	五月上旬播種 九月末收穫 藥劑散布 1回 除草 1回 50俵(1俵6貫入)	四月末播種 九月上旬收穫 藥劑散布 1~2回 除草 2回 20俵(1俵15貫入)
耕作費	1俵(裸6貫)ニ付 0.60	1俵(裸3貫)ニ付 1.65	1俵(裸15貫)ニ付 4.75
反當收入金額	130.00	82.50	87.50
肥料	糞 4貫 磷 2貫 加里 1貫 30~40円	糞 2貫 磷 1貫 加里 1.50貫 10~15円	糞 2.5貫 磷 3貫 加里 1貫 20~30円
○ 東京市場迄ノ運費用並ニ東京市場小賣價格			
産地採掘費	1俵(6貫)ニ付 0.80	1俵(8貫)ニ付 1.85	大薯 1俵(15貫)ニ付 4.75
運搬費及搬出費(脚金)	〃 〃 〃 〃	〃 〃 〃 〃	〃 〃 〃 〃
寄果物出荷組合手数料	〃 〃 〃 〃	〃 〃 〃 〃	倉庫費 〃 〃
選果組合手数料	〃 〃 〃 〃	〃 〃 〃 〃	〃 〃 〃 〃
販賣聯手手数料	〃 〃 〃 〃	〃 〃 〃 〃	〃 〃 〃 〃
仲買商人手数料	〃 〃 〃 〃	〃 〃 〃 〃	〃 〃 〃 〃
小計 (出荷地 露渡値段)	〃 〃 〃 〃	〃 〃 〃 〃	〃 〃 〃 〃
市(軍總費及露渡露渡達露渡 市)手数料 (6%)	〃 〃 〃 〃	〃 〃 〃 〃	〃 〃 〃 〃
合計 (市販買値)	1貫當 0.25	1貫當 0.31	1貫當 0.466
東京小賣価格 露渡價ニ付テ小賣 組合ノ小賣價	1貫當 0.60 240%	1貫當 0.50 161%	1貫當 0.60 129%

生産ト價格ノ關係例

	甘蔗 (南部)	南瓜 (黒栗)	馬鈴薯 (三河)
○ 生産地ニ於ケル生産ト價格ノ關係	六月末收穫 農圃撒布 2回 除 150俵(1俵6貫入)	五月上旬收穫 農圃撒布 1回 除 50俵(1俵8貫入)	四月上旬收穫 農圃撒布 1~2回 除 20俵(1俵15貫入)
耕作式	1俵(裸6貫)=付 0.20	1俵(裸9貫)=付 1.65	1俵(裸15貫)=付 4.75
反當收入金額	120.00	82.50	87.50
肥料	糞 4貫 磷 2貫 加肥 1貫 } 30~40円	糞 2貫 磷 1貫 加肥 1.50貫 } 10~15円	糞 2.5貫 磷 3貫 加肥 1貫 } 30~30円 (加肥 300貫)
○ 東京市場ニ於ケル諸費用	1俵(6貫)=付 0.80	1俵(8貫)=付 1.65	大薯 1俵(15貫)=付 4.75
產地裸段	〃 〃 〃 〃 〃	〃 〃 〃 〃 〃	〃 〃 〃 〃 〃
荷造費及運出料(裸段)	〃 〃 〃 〃 〃	〃 〃 〃 〃 〃	〃 〃 〃 〃 〃
荷造物出荷組合手数料	〃 〃 〃 〃 〃	〃 〃 〃 〃 〃	〃 〃 〃 〃 〃
運賃組合手数料	〃 〃 〃 〃 〃	〃 〃 〃 〃 〃	〃 〃 〃 〃 〃
運賃組合手数料	〃 〃 〃 〃 〃	〃 〃 〃 〃 〃	〃 〃 〃 〃 〃
伸買商人手手数料	〃 〃 〃 〃 〃	〃 〃 〃 〃 〃	〃 〃 〃 〃 〃
小計 (出荷地諸費用)	1.23	2.10	5.90
荷造費及運出料(裸段)	〃 〃 〃 〃 〃	〃 〃 〃 〃 〃	〃 〃 〃 〃 〃
市場手数料 (0.2%)	〃 〃 〃 〃 〃	〃 〃 〃 〃 〃	〃 〃 〃 〃 〃
合計 (市場諸費用)	1.50	2.50	7.00
東京小買相場	1.50	2.50	7.00
東京小買相場	0.60	0.50	0.60
東京小買相場	240%	161%	129%

東北地方食糧増産懇談會概要

—
内
閣

5

東北地方食糧増産懇談會概要

一日 時 昭和十六年二月二十日 午後二時十五分開會
午後七時十五分閉會

一、會 場 上野精養軒

二、出席者 別紙ノ通

三、配付資料

一、最近ニ於ケル東北地方災害概況調査書

二、東北地方に於ける畑作農業の實態

一、懇談概要

東北局長

開會挨拶ノ後御手許ニ配布シテアル順序ニ依リ農林省農産課長ニ御

談シテ願フ

農産課長

本日東北局御主催ノ本會議ニ出席致シマシテ種々御意見を承ヘル機
會ヲ得マシタ事ハ誠ニ幸ト致シマス、御談シノ序曲トシテ私カラ申シ

内 閣

マスガ主トシテ米ノ問題食糧増産ノ關係等簡單ニ申シ上ゲタイ、米ノ
増産ニ就テハ事變以來格段ノ御配意ヲ得テ夫々進メテ居ルノデアリマ
ス、其ノ狀態ヲ申シマスと昭和十三年ハ平年作ヲ保チマシテ大體其ノ
目的ヲ達シマシタ、昭和十四年度ハ平年作ヨリ四百萬石増産ノ計畫ヲ
樹テマシタガ西日本ノ旱魃ニモ拘ラズ六千九百萬石ノ收穫ヲ得ルニ至
リマシタ、十四年度ハ旱害地方以外ハ豫期ノ成績ヲ舉ゲマシタガ特ニ
東北地方ハ農家モ指導者ノ努力ニ依リマシテ豫想以外ノ豐作ヲ得マシ
タ事ハ誠ニ感謝ニ堪ヘナイ次第デアリマス、昭和十五年度ハ七千百萬
石ヲ目標トシテ格別ノ御意ヲ願ヒ致シマシタガ天候ガ思ヘシカラ
ズ相當大巾ノ不作ヲ招クニ至リマシテ今日窮迫ヲ告グルニ至リマシタ
事ハ甚ダ遺憾ニ堪ヘヌ所デアリマス、夫レニ就イテ東北六縣ヲ考ヘマ
スルト福島縣ハ適當計畫以上ノ實績ヲ舉ゲマシタ、其ノ他山形、宮城
等ニ於テモカナリ計畫ニ近イ實績ヲ得マシタガ、其ノ他ノ縣ニ於テハ
相當ギヤツブチ生ジ全ク違作トナリマシタ、其ノ原因ハ天候ノ不良ニ

基クモノデ實ハ昨年三月海水ノ溫度ヤ氣象ノ狀況ヲ綜合シテ見マシタ
時海水溫度ガ一、二度低カツタノデ冷害ノ氣遣ヒガナイデモナカツタガ
サリナガラ特ニ警告ヲ發スル程度トモ考ヘラレンノテ其ノ極端過激シ
マシタ、夏ノ日本海岸方面ハ極メテ日照不足デ冷害氣味ノ氣象トナリ
マシテ遂ニ東北六縣ノ不作トナツタノデアアルガ概シテ申シマスレバ氣
候ノ割合ニ良好ノ成績ヲ得マシタ事ハ從來カラ實施サレテ居ル冷害對
策ト後家ノ増産ニ對スル努力ト皆極ノ御助力ニ依ツタコトト存ゼラレ
マス、昭和十六年度ノ計畫ハ應急ト十ヶ年計畫ヲ目トスル氣久景ノ
兩方ニ分レテ居リマス、十ヶ年計畫ノ恒久施設ハ農藥土木、開田開墾、
農地耕地ノ改良、試験研究ノ結果ニ基ク諸施設デアリマスガ、十ヶ年
計畫ノ内容ニ就テハ耕地課長、局長ヨリ概シガアリマセウ、應急ト
シテハ從來ノヤリ方ヲ繼續致シマシテ夫レヲ増加擴大シテ行ク計畫デ
アリマス、昭和十六年度ノ米穀生産目標ハ七千百萬石デアツテ本年度
ニ於テ是非實現シタイノデアリマス、麥類ニ就テモ増産計畫ヲ致シマ

内閣

シテ格別ノ御骨折ヲ頂キマシタノデアアルガ其ノ計畫ハ二百八十九萬石
ヲ増産スル豫定デ中百四十萬石ハ改良増産、残りハ十二萬餘町歩ノ作
付面積増加ニ依ルコトトシマシタガ相當ノ實績ヲ得ルニ至リマシタ、
小麥ハ千三百萬石ノ生産目標ニ對シ昭和十五年度ノ成績ハ千三百十餘
萬石ノ生産ヲ得マシテ、コレハ主トシテ天候良好ナルニ依リマスルガ
生産者ノ努力モ力アツタコトハ勿論デ非常ニ幸トスル所デアリマス、
昭和十六年度ニハ大麥ノ作付ガ増加スルノデ小麥ノ千三百萬石生産維
持ハ困難ノ事情ニアルカラ千二百萬石ヲ維持スル計畫デアアル、米穀ノ
生産七千百萬石收穫ノ獎勵方法ハ前年實行セラレタル事項ヲ繼續致シ
マスル豫定デ昭和十四年度ニ御盡力ヲ頂イタ耕種改善基準ヲ改善シテ
全般的反當増加シタイ、即チ多收穫品種ノ普及、温床苗代ハ特ニ東
北、北陸地方ニ施設ヲ要シマス、其ノ他病蟲害ノ豫防等デアリマス、
以上ノ外ニ町村トシテ平均收穫ノ低イ處周圍ノ事情カラシテ相當反當
收穫ノアルベキ處ニ其ノ反當ノ低イ處ニ見當ヲツケテ其ノ町村ニ計畫

的指導スル即チ世位收穫町村増産施設デアリマス、二、三日前局長名
デ其ノ機ナ町村ニ目星ヲツケテ特別ノ措置ヲ講ジテ頂キタイト通際チ
出シマシタカラ適當ニ御配慮チ願ヒマス、其ノ機ナ町村ニハ技術員ガ
居ナイトカ何等カノ事情ガアリマスル事デ技術員ヲ總動員シテ座談會
等ヲ開イテ村民ノ一致協力ヲ求メテ増産ヲ本氣ニヤツテ貰フ機ニ致シ
タイト存ジマス、低位收穫町村ハ全國ニドレダケアルカト申シマス
全國平均ヨリ低イモノハ四千四百ノ町村ガアリマス譯デ縣ニ於カレテ
モ此ノ目的ニ則シテ數十乃至百數十ノ町村ヲ指定サレルノデアルガ、
其ノ目標ヲ相當高イ處ニ置イテ十六年度特ニ計畫米穀生産數ニ達スル
機御願ヒ致シタイト、差當リ設立タナイガ育種ノ事業モ初期試験、地方
指定試験、地方府縣比較試験即チ一期二期三期ヲ全期ヲ連續シテ獎勵
品種ヲ育成シテ種子ノ配給ヲ致シタイト、原種圃ヲ配給數量ノ八割迄増
加シタイト、ソレカラ麥ニ就テハ今年ノ秋ニ播クモノニ就テ計畫ハアリ
マスガ大規模ノモノハ夏頃迄ニ計畫ヲ備テタイト考ヘテ居リマス、大

内 閣

麥、裸麥ノ品種育成ノ計畫ハ確立致シマシテ六ヶ所ノ試験地ヲ選定シ
府縣ノ比較試験シマス外、原種圃ノ面積ヲ増加スル計畫デアリマス、
秋ノ播付ケノ擴張、動力耕種機ノ購入助成等ハ不徹底ノ處モアリマスノ
デ秋ニナル迄ニ擴充シタイト考ヘマス、病蟲害ノ關係ハウンカ、螟蟲、
ハマグリ、ドロオヒ等ノ防除ヲ重ニ東北地方ニ必要ノ事デアリマス、
大麥ニ就テモ向上ノ計畫ヲ居リマスガ大體前年ト同様デアリマス、
病蟲害ハ補助率低イノデ増加計畫シマシタガ成功致シマセン、僅カ
ニ藥價ノ値上リニ對スル分ガ増加シタ程度デアリマス、病蟲害ハ發生
豫知ガ出來マセンノデ早急ニ發見スル事ガ大切デアリマス、早期ニ發
見シテ合理的ノ防除ヲ爲ス必要ガアリマス、昨年發見ガ遅レテ「ウン
カ」ノ大慘害ヲ受ケタ實例モアルノデ病害發生狀態ニヨリ地域的ニ
分ケテ技術者、農務指導教師等連絡シテ其ノ豫察ヲシテ眞ヒ其ノ狀況
ヲ農事試験場ニ報告サセ農事試験場ニ職員ヲ増シテ其ノ報告ニ基イテ
研究シテ中央ニ報告スル方法ヲ採ルノデアリマスガ、コレニハ金額ノ

補助トナツテ居ルノデアルカラ此ノ事ハ早ク一切ノ準備ヲ終ヘル様ニ
ニ制願シテアル等デアリマス然カシ豫算ガ不足シテ居リマスカラ全部
ニハ出来ナイカト存ジマス、兎ニ角充分ノ方法ヲ制願ヒ致シマス、増
産ニ對スル昨年ノ實情ニ徴スルニドウモ充分ニ徹底シナイ傾向デア
ル事ニ實行シテ實テ爲ニ種々ヤツテ頂キタイ、地方關ニ指導本部ガ出
來地區ヲ分擔シテ各種ノ施設計畫ガ樹立サレタデアリマセウガ本國ニ
於テモ準備ヲ作ツテ居ルカラ相連絡シテ徹底スル様制願スル所デア
マス、技術指導ノ徹底ヲ計ル爲十五年度三百四十萬圓ノ豫算ヲ配當
シマシタガ十六年度ハ豫算ヲ削減サレルニ至リマシタ様指導費、器
備費、増産技術員費等大キナ豫算ノ事案ハ殆トホレテ居リマスガ豫
備金ノ支出ヲ待テ出来ルト思ヒマスガ今此處ニハツキリ申上グル事ハ
出来マセン、以上アラスジノミ申上ダタノデ徹底シナカツタカモ知
マセヌガクワシイ處ハ質疑ノ際申上ダマス様々申シマス通り東北地方
ハ特殊ノ地位ニアリマスノデ耕作ヲ安全ニ確保スル事ガ第一義デア
ツ

内閣

ヲ確實ニ生産スル事ガ徹頭徹尾必要ノ事デアリマス、増産ノ制當テハ
目標トセネバナラヌガ不作ト云フ危險性ヲ考慮シテ確實性ヲ持ツ事ガ
大切デアリマス、コレヲ特ニ制願ヒ致シマスカラ宣敷ク。
農事試験場長
食糧ノ増産ハ目下ノ急務デアリ國家ノ危急ニ關スル問題デアリマス
本年モ此處數年ニ比較シテカナリ多額ノ増産ガ必要デアリ然カモ急速
ニ效果ヲ擧ゲネバナラン急務ニ差迫ツテ居ルノデアリマス、夫レニ就
イテ政府ノ事案モ生産増産ニ全力ヲ盡グテ居ルノデアリマス、農林省
モ過去幾來技術指導班ヲ組織シテ各分擔區域ヲ廻ツテ制出席ノ皆サント
モ技術的立場ニ於テ研究ヲ願ツタ次第デアリマス、此問題ヲ此處ニ申
上ダ様ト思ヒマス只其ノ際考ヘラレル事ハ技術的方法トシテハ種々適
切ナル方法ヲ考ヘルコレニ依ル事ハ左程困難デナイ事デハアルガコレ
ヲ實行セシノルニハ相當心配ガアルノデアリマス各縣共ニ指導方針カ
ヲ實施ノ狀況ヲ聞クト非常ニ熱意ヲモツテ當ラレテ居ル事ハ實際感謝

スル處デアリマスガ生産部面デアル農家ニ染ミコマセル相當困難ガア
リ人ヲ働カスコトニハ非常ニ苦心ガアルヤウデ其處ニ力ヲ盡サネバ何
ニモナラント考ヘラレルノデアリマス、然レバコレガ爲ニハ出來得ル
限リノ協力ヲ盡シテ目下ノ直接急務デアル増産問題ヲ解決セネバナラ
ンノデアアルガ、コレハ皆様モ御承知ノ通りデアルカラ増産ト技術的ノ
見解ニ就テ今後ノ可能性ヲ技術的立場カラ参考ノ爲一層申シ上ゲタイ
ト存ズル次第デアリマス、増産ヲ達成セントスル場合如何ナル技術ガ
必要デアルカ、植物生理學的ニ或ハ生態學カラ見テ増産ガ成リ立ツタ
カ等ノ研究ガ必要トナル、同一ノ地ニ豊凶ノ差ガアル如ク増産計畫モ
餘程考ヘネバナラヌ、平均收量ヲ基準トシテセルコトハ事務的或ハ政
策的ニハ出來ルガ技術的ニ解明スルト年ニ依ツテ豊凶ノ差ガアリ天候
ノ良好ナル時ハ三石モ四石モトレル事ガアリ、冷害ニナラヌ程度ノ氣
候デモ二石、一石五斗ト減收シテ段々ニアル角度ヲモツテ生産ガ變化
シテ表ヘレテ來ル、コノ様ニ状態ニ於テコレヲ増産スル計畫ニハ二ツ

内閣

ノ考ガ生ジテ來ル、一ツハ昨年ノ五分乃至一割ヲ増産スル樹テ方ト平
年ノ高サニ五分ノ増産スル一ツノ樹テ方ガアルガ此ノ場合ハ三石ノ時
モアリ二石ノ時モアリ、コレヲ基準トスル五分ハ實際ノ五分ノ増産ト
ハナラナイ事ニナルノデアアル、一體太陽ノエ、ネ、ギ、ト、チ地上ニ投セラ
レル力ハ冷害ノ場合ハ非常ニ不足シテ居ルノデアラウカ、ソレハ決シ
テ寡少ノモノデアリハナイノデ太陽ハ必要ナルエ、ネ、ギ、ト、チ地上ニ與ヘテ
居ルノデアリマス、現ニ昭和九年ノ大凶作ト言ヘレタ時ニ實際見テ居
ルノデアリマス、凶作地帯ノ最モ大ナル所ノ附近ニ點々三石四石ノ收
穫ヲ得テ居ルモノガアリ、實物ノ稻株ヲ送ツテ研究シテ結果モ米實モ
良好デ何ノ損色モアリマセン、此ノ事柄ハ農家ノ努力ニ依ルモノト大
ニ敬意ヲ表スル所デアリマス、即チ太陽ノエ、ネ、ギ、ト、チハ必要量ハ露ツ
テ居ルノデアアルガ、普通ノ人ハコレヲ採ラナイデ冷害ヲ受ケテ居ルト
言フコトニナリマス、コレヲ採ルカ採ラヌカニ依ツテ決定サレルモノ
デ音段カラノ用意ト丹誠ガ得ルノデアアルガ普通ノ人ニハヤリ得ナイ爲

ニ被收トナルノデアリマス、不良天候デモソレダケノエネルギーハ存
在スルノデアルカラ四圍ノ温度ト植物ノ生理機能トヲ考ヘテ増加作用
ヲ爲サシムレバ能率ガ高クナルノデアリマス、ソコデ氣候ノ悪イ時ニ
ハ自然的條件ニ適合セル機ニセネバナラヌ例ヘバ氣候ノ良イ暖地ノ
機ニ丈夫ノ苗ヲ作ツテ肥料ヲ充分ニヤツテ急速ニ成長サセルト稍葉ダ
ケガ出来ヌギテ仕舞フソレハ光線ノ不足スル爲メ不良分蘗ヲ來タスカ
ラデアル、デアルカラ其ノ播ナ時ニハ餘々ニ成長サセテ肥料ノ吸收モ
ソレニ應ジ種ノ出ル時迄成長ノ力ヲ盡メルト遊ノ結果ヲ得ル場合ガア
ル、東北地方ハ苗ガ良ケレバ其ノ年ノ作ガ良イト言ハレマスガ相繼性
ノ適比ノ問題ガ重要ナ根本問題デアツテ一般ノ常識ダケデハ判斷ガ出
來ナイコトト思ハレル、農業上ノ根本方針ニ依ラネバナランノデアリ
マス、土地ト氣候トヲ相對的ニ考ヘル必要ガアル其ノ年ニ依ツテ收穫
ノ違フ事モ相繼性ノ理ハレト思ネバナリマセン、東北地方ハ天候ガイ
ツ悪クナルカワランノデ苗ヲ良ク育テテ種ク事ハ一番大切デアリマ

内閣

ス、普通ノ年ハ餘リ關係ガアリマセンガ何カアルト非常ニ差異ガ生ズ
ルノデアリマス、此見地カラスルト氣候ノ良イ時ハ増産ノ率ハ低ク其
ノ效果ハ普通デアアルガ天候ガ悪イ時相當違ツテ其ノ角度ハ著シク開イ
テ來ルノデアリマス、増産増收ノ實現ハ減收防止デナケレバナリマセ
ンエネルギーハ充分ニアリマスカラソレダケノ用意ト丹誠ヲモツテス
レバ角度モ緩クナツテ三石一斗迄ハ生産ガ出来ルト思ハレマス、東北
地方トシテハ常ニ何時來ルカワカラヌ天候ノ不良イツ變ハルカワカラ
ヌノデアルカラ米ノ良種ヲ用立スル必要ガアルト思ハレル、栽培方法
併種ノ改良ヲ心掛ケネバナリマセンガ要ハ減收ノ防止ニアルト考ヘラ
レマス、二三年天候ガ良イト直グ忘レテ仕舞フ農家ダケデナク指導的
立場ノ人迄忘レテ仕舞フ機デハ困ルワケデ確カ明治三十七八年頃ト思
ヒマスガ宮城縣ニ愛國品種ノ凶作ガアツテ困難シタ事ガアリマス愛國
ト申シマスルノハ收穫ノ多イ品種デアリマスガコレチ多ク栽培シタ爲
ニ大不作ヲ來タシタノデアリマス昭和九年ノ時ハ昭和三十二號ノ凶作

日本經濟叢書 第 11 卷 第 1 号 1937 年 1 月 1 日 発行

トデモ申シマスカ、凶作地帯ニハ植付ケテハナラヌ處迄栽培シタ爲デ
アリマス、福島縣地方デハ北陸地方ニ普及スル畝坊主、青森地方ニハ
農林一輔、宮城縣ニハ林一輔ト云フ人氣品種ノ存在スル事ガ其ノ因チ
爲ス場合ガアリマス、ソレガ良イ處ダケナラバ良イガ山間地帯迄進出
スルト天候ガ惡イ時ニハ直チニ大影響ヲ來スノデアリマスカラ、人氣
品種ニハ其ノ警戒チセネバナリマセン、人氣品種ヲ指導者ガ警戒シテ
モ作ラレルノハ其ノ人氣品種ノ特徴ガアリマスカラ指導者ハ特ニ御注
意ヲ願ヒマス、東北地方ニ陸羽三十二號種ノ尾ガ多ク作付ケサレタノ
ハ要スルニ米ノ品質ニアツタノデアリマス、然シ今デハ事情チ異ニシ
テ居リマス、現在デハ實ヨリモ量デアリマス、一粒デモ收量チ増加セ
ネバナリマセン時デ多收品種チ獎勵シテ居ルノデアルガ、却々採用シ
テ奥レマセン、多收品種チ作ルニハ各方面ト連絡シテ種々苦心シテヤ
ツテ参リマシタ、陸羽三十二號ハ一種ノマダレ當リデ秋田縣地方ニ明
治四十四年デシタカ、愛蘭銀坊主ノ爲ニ懇イ結果トナリ其ノ原因ガ稻

内 閣

熱病ニ強イコトガ判ツテ來テコレヲ防止スル爲ニ研究サレテ出來タ捨
ヒモノト申スモノデアリマス、只今デハ南洋羣ノ稻ガ稻熱病ニ對シテ
ハ段違ヒニ強イノガアリマスガ、味ガ外米味デアリマス、然シ非常ニ
良イカラ全國的ニヤリタイト思フガ、東北地方ニハ重大ノ問題デアリ
マスガ、稻熱病ニ強ク收量モアリ、此處ニ非常ニ濕ミチ濕シテ居リマ
ス、如何ナル山間部デモ稻熱病ニ對抗シ得ル性質チ持ツテ居リ、豊凶
ノ差チ出サヌコトガ增收ノ一方法デアル、其ノ後チ時デアルカラ天然
ノ要素、缺陥チ補フニハ大變役立つコトト存ジテ居リマス、増産ニハ
相對性チ持タネバナラン、増産モ實際ノ場合ニ合ハヌコトモアリマス
カラ矢張り平均ト言フコトチ考ヘテ實行ノ場合ハ現實ノモノチ目標ト
シテ其ノ目的チ達スル極ニ細心ト致シタイト存ジマス、誠ニ不用意ニ
申シマシタ爲前後不揃ヘノ點モアリマシタコトト存ジマスガ、大體夜
間方面カラ申シ上げマシタ。

耕地課長代理

本日課長が出席シテ平定ノ御禮ヲ申シトゲ増産ノ計畫ヲ御願ヒスル
豫定デアリマシタガ折衷シク議會ノ分科會ニ出席致シテ居リマス爲ニ
出席出來マセンノデ止不私カラ申上ゲマスガ充分ニハ申上ゲラレマ
センノテ豫定ニ申上ゲテクワシイ事ハ協議會デ申シ上ゲタイト存ジマ
ス、十ヶ年増産計畫トシテ耕地確保ニ健キマシテハ新開ニモ出テ居リ
マスノデ大體御承知ノ事ト存ジマスガ御禮ノ序チモツテ一應申上ゲマ
ス、耕地事業中關聯ニ就イテ申シマス十ヶ年間ニ五十萬町歩ヲ開地
スル計畫デアリマスガ夫レチ二ツニ分ケマシテ五十町歩以上ノ集團開
墾ト夫レ以下ノモノニ區別シテ開地ノモノ二十五萬町歩、五十町歩未
滿ノモノ二十五萬町歩トナツテ居リマス。改良計畫ニ就テハ百七十二
萬町歩ニ對シ水利ノ改良、田ノ改良ヲ爲ス事ニナツテ居リマス其ノ中
水利改良ハ百萬町歩デ五百町歩以上ノ集團地五十萬町歩以下ノモノ五
十萬町歩トナツテ居ル、殘リ七十二萬町歩ノ中三十五萬町歩ハ暗渠排
水二十萬町歩、耕地整理、床締客土ガ八萬町歩、地下水源開發五萬町

内閣

歩其他合シテ百七十二萬町歩トナツテ居リマス此十ヶ年ノ事業費ハ總
額十三億餘圓トナル計畫デアリマス其ノ中開墾ノ經費ガ六億五千萬トナ
ツテ居リマス以上ガ工事費ノ全額デアリマス以上ニ依ツテ増産セント
スル數量ハ米約八百六十萬石、麥八十四萬石其他雜穀甘藷、馬鈴薯等
デアリマス今議會ニ提出奉議サレテ居ル農地開發法ハ五十町歩以上集
團地ニ集團ノ開發會社ガ出來テコレニ依ル事ニナリ五十町歩以下ハ從
來ノ組織ニ依ルノデアリマス、集團ノ事業ハ關聯ノ外水利施設チヤル
ノデアルガ三千町歩以トノモノニハ水利事業ヲ命令チ以テヤラセル事
ニナリマス尙十ヶ年計畫ト東北地方ノ關係ヲ申シマスト關聯五十萬町
歩ノ中東北地方デ十五萬町歩約三割改良ハ百七十二萬町歩ノ二割約三
十四萬町歩ノ見込デ東北地方ハ關聯豫定地ニシテモ改良事業トシテモ
大キイモノデアリマス、然シコレ等ハ從來カラアリマスル仕事デ殊ニ
近年此方面ニハ相當努力シテ居リマスガ就中昭和十二年度以降凶作防
止ノ爲ニ或ハ水利ノ改良ノ爲ニ國ニ於イテ充分デハアリマセンガ昭和

十六年度概五ヶ年開キ一期トシテ進ンデ居ルノデアリマス最モ十六年
度以下ハ十ヶ年計畫ニ含マレル事ニナリマス從東トモ東北ニ對スル關
係ハ濶ク水利事業等ハ全體ノ六割四分トナリ内海ハ凶作、旱害、異常
防止ノ對策ガ多イノデ十ヶ年計畫ヲ遂行スルニモ充分考慮シタイト
存ジマス昭和十六年度ハ二百二十二萬町歩ノ中三十七萬町歩ヲ着手ス
ル計畫ヲ内海ハ開墾八萬町歩地改良ハ二十九萬一千町歩其ノ事業費
ハ二億二千萬デ兩ニ經費ハ一億ガ計上サレテ居リマス、計畫ト別途デ
アルガ本年ノ補付ケニ對シ早急ニ對スル對策ヲ考究致シテ居リマス、
本年ハ實ガ少ナク補付ケ時ニ水不足ヲツゲルコトガアラウカト非常ニ
心配致シテ居リマス局長名ヲ以テ東北六縣知事ハ御願ヒシテ現在ノ狀
況ハドウナツテ居ルカ降水量積雪量等ノ御報告ヲ御願ヒシテ居リマス
ガ御報告ニ基イテ其ノ對策ヲ豫定デアリマスカラ宜敷御配慮ヲ
願ヒタイノデアリマス、昨年ノ經驗カラ早急ノ對策トシテ支障トナル
事ヲ考ヘマサルト資材ノ點デアラウト存ジマス殊ニポンプノ對策ガ一

内閣

番要トナルノデアリマス、昨年全國ニ涉リ約五十萬町歩ノ旱害地ガ
生ジマシタガソレニ對シテ關係方面ト連絡シタガ資材轉ニ鐵鋼燃料ガ
非常ニ困難致シマシタノデ今年ハ其ノ對策ヲ考究致シテ居ル次第デア
リマス誠ニ取トメノナイ御願ヲ申上ゲマシタ以上デ大體御了承ヲ御願
ヒ致シマス。

内閣東北局長

農林省ノ方ノ豫定ハコレヲ終リマシタガ何カ要點ガ御座イマシタナ
ラバ農林省、試験場カラ出席者名簿ニアリマス通り澤山御出席ヲ御願
ヒシテアリマスカラ御質問ヲ御願ヒシマス。

青森縣

只今ノ試験場長ノ御談ニ依リマスト種熱病ニ對スル優良品種ハ十年
位ノ研究デハ六ヶ敷イト言ハレマスカ南洋系ノ品種ガ出來ルトノ事デ
喜ビニ堪ヘヌ感デスガ實際民間ニ栽培スル時期ハ何時頃デアリマセウ
カ。

農事試験場長

只今其ノ時期ニ達シツツアルノデ令カラ二十年バカリ前ニ愛知縣農
事試験場ノ佐々木氏私達ノ先輩ガ精熟病ニ對スル研究ヲサレテ當時人
工的方法太陽燈ノ研究中ニ南洋乘福イト言フ事ヲ發見シテコレヲ採リ
入レテ學究的ニ研究致シマシタガ交配スルト選イモノガ出來ルコレハ
遺傳的ニ來ルカドウカ分リマセン五六年前カラ共同研究者トシテ本格
的ニ研究シテ居リマスガ仲々複雑致シテ其ノ根據ハハツキリ致シマセ
ン然シ愛知ノ農事試験場デハ理窟ハ電ニ角實效ガ大キイモノ作ルト言
フ方針デヤツテイマスガ品質ガ惡イ、大體二十年ハ經過致シテ居リマ
ス名稱ハ變遷ト申シテ居リマス名稱ノ出處ハ雙葉山ノ如ク強イト云フ
意味デモアリマスカ愛知ノ山間部デ稻熱病ノ最モヒドイ地方ニ補付ケ
シテ居リマスソレヲ土臺トシテ數種ヲ交配シテ居ルノデアアルガ北陸、
東北地方ニ材料トシテ行キタイト存ジマス何年目ト約東ハ出來マセ
ンガ機關々々シテハ歐目デアアルカラ丁事ヨリモ速速的ヤル必要ガアル

内閣

ガ三四年ハカカルカモ知レナイ最モ割合ニ早ク出來ルカトモ思ハレル
東北地方デハ南部方面ガ良イト思フ、此品種ハ稻熱病ニ對スル抵抗ハ
アルガ他ノ原因ヲ考ヘテ思ルト容易デナイ然シ時勢ニ依リ注文ガ變ハ
ルノデ四五年中ニ實用ニナル様ニシタイト存ジマスガドウ進展スルカ
一寸不明デ豫算モ五分ノ一ニモ減ジラレタ状態デ凶作試験地ト協力シ
テ研究シタイト思フ。

青森縣

昨年海水温度ガ低カツタトノ御談デスガ何月頃ノ海水温度デセウカ
又今年ハドンナモノデアリマセウカ。

農産課長

今年ハ未ダ分リマセンガ近ク農事試験場ト連絡シテ見タイト思ヒマ
ス、昨年モ三月頃ノ觀測デアツタ様デス昨年ノ様ニ七月頃天候ガ丸ツ
ブレニナツタ事ハ異例トサレマスアノ場合ノ對策ガ出來レバ良カツタ
ト思フガ要スルニ備産ヨリ莫害防止ガ大切デアリマセウ。

山形縣

此十ヶ年計畫ニ就テノ資材ハ特別ニ各縣ヘ交付サレマスカドウカ、
耕地事業ノ資材トシテ増産ガ出来マスカ。
耕地課長代理

資材ニ就テハ充分ニ心配シテ居リマス豫算チ出ス場合企業院ニ充分
打合セ致シマシテ大蔵省ニ豫算ノ内容ガ細マリ懇會ヘ提出スル際モ企
業院ト打合セテ致シテ居リマス昭和十六年度ノ資材ハ相當額屈トナリ
マスガ増産ニ而スル資材ハ別途ニ配給スル筋ガ良イトノ意見モアリ具
體的打合セハ二十八日頃ノ豫定デアリマス鐵鋼、銅、セメント等出来
ルダケ資材ヲ確保スル機努力致シマス十六年度分ハ更ニ確保サレル機
手配致シマスガ十ヶ年全部ハ一寸申上ゲ兼ねマス。
青森縣

自動耕種機ハ相當量ハ手ニ入り得ル見込ハアリマセウカ私ノ方デハ
平地牧野ニ荒廢牧場ガアリマスガ食糧増産チ必要トスル時荒廢牧場チ
内閣

放棄スル事ハ不利益デアアル平地牧場デアアルカラ極メテ簡單ニ收穫サレ
ル然シコレチ爲ス爲ニハ耕種機ガ必要デアアルガ如何デセウ。
農産課長

秋ノ麥作ハ大イニ擴張致シタイ少クトモ各種ノ麥チ過ジテ十五萬町
歩チ擴張シタイ夫レニハ休閑田畑チ利用シタイガ昨年ノ三月ノ調査ニ
依リマスト畑畑チ合セテ七十二萬町歩アル事ニナツテ居リマス然シ勢
力不足ガ主ナル原因デアアルカラ休閑地チ利用スル爲ニハ耕種機チ利用
シテ其ノ不足チ補ハネバナリマセン休閑地利用ガ主デアリ麥數ハ千
位デアリマセウ夫レ以上ハ資材ノ關係上製作能力ハアリマセン必要量
二千畝位其ノ半分ダケ目的ニ使フ計畫デアリマス燃料ガ不足シテ居ル
ノデ大ダサニハ出来マセン、麥ノ作付擴張ト相持ツテ善處シタイト存
ジマス。

秋田縣

燃料ノ方ハ善支アリマセンカ。

農産局長

二千臺位ヒハ差支アリマセン現在ハソウダガ將來ハ調整ト申ス際ニハ参リマセン

宮城縣

セ、ノ、ト、ノ、制、機、モ、ア、リ、マ、シ、タ、ガ、暗、渠、排、水、ニ、ハ、使、用、ガ、出、來、マ、ス、カ、ド、ウ、カ、ノ、地、ノ、土、管、ヲ、購、入、シ、テ、購、ツ、タ、ガ、最、近、デ、ハ、品、不、足、デ、必、要、量、ヲ、得、ル、事、ガ、出、來、マ、セ、ン、從、ツ、テ、セ、ノ、ト、ガ、多、量、ニ、必、要、ト、ナ、ツ、テ、購、ル、ノ、デ、ア、リ、マ、ス、先、理、金、書、院、ト、交、渉、中、ト、ノ、制、機、シ、デ、シ、タ、ガ、宮、城、縣、ニ、ド、レ、ダ、ケ、交、付、ニ、ナ、リ、マ、セ、ウ、カ、ノ、早、害、ニ、ハ、揚、水、機、ガ、必、要、デ、ア、ル、今、年、ハ、雪、ガ、不、足、シ、テ、購、ル、カ、ラ、水、不、足、ノ、懸、念、ガ、ア、ル、カ、ラ、揚、水、機、ヲ、海、山、買、入、レ、ル、事、モ、豫、想、サ、レ、ル、カ、ラ、特、別、ニ、配、給、ヲ、制、限、シ、タ、イ、機、料、ト、シ、テ、ハ、運、搬、排、水、ノ、重、油、ガ、イ、ル、ノ、デ、ア、リ、マ、ス、ガ、昨、年、ハ、約、七、十、四、立、ヲ、使、用、シ、マ、シ、タ、ガ、百、萬、立、ハ、必、要、ト、數、シ、マ、ス、昨、年、迄、ハ、ス、ト、ツ、ク、ガ、ア、ツ、タ、ノ、デ、ド、ウ、ニ、ハ、變、イ、ダ、ガ、今、年、ハ、ス、ト、ツ、ク、モ、毎、夕、兩、禮、ヲ、來、シ、テ、購、リ、マ、ス、カ、ラ、時、期、ヲ、逸、セ、ヌ、機、制、願、敷、シ、マ、ス、。

内閣

耕地課長代理

暗渠排水用ニセ、ハ、ノ、ト、ヲ、使、フ、モ、ノ、ト、土、管、ヲ、使、フ、モ、ノ、ト、ガ、ア、リ、マ、ス、ガ、從、來、ノ、研、究、ニ、依、リ、マ、ス、ル、ト、「モ、ル、タ、ル、管」ガ、有、利、デ、ア、リ、マ、ス、東、北、地、方、ハ、全、國、ニ、モ、普、及、シ、タ、方、デ、昭、和、十、二、年、以、來、東、北、振、興、事、業、ト、シ、テ、非、常、ニ、發、立、ツ、テ、購、リ、マ、ス、昭、和、十、二、年、カ、ラ、十、五、年、迄、ニ、一、萬、町、步、餘、ガ、施、行、サ、レ、テ、購、リ、マ、ス、土、管、ト、モ、ル、タ、ル、管、ヲ、造、リ、マ、シ、テ、幹、線、ニ、ハ、モ、ル、タ、ル、管、支、線、ハ、土、管、ヲ、使、用、シ、テ、購、リ、マ、ス、

然、シ、各、縣、全、部、ト、申、サ、レ、マ、セ、ン、ガ、最、モ、良、イ、方、法、ト、考、へ、ラ、レ、マ、ス、山、形、ノ、宮、城、縣、ノ、野、島、等、ニ、普、及、シ、テ、購、リ、マ、ス、土、管、ノ、製、造、ハ、全、國、デ、四、百、六、十、二、餘、リ、産、ノ、數、モ、七、百、八、十、餘、ア、リ、マ、ス、コ、レ、等、ハ、古、イ、時、代、カ、ラ、有、ル、ニ、拘、ラ、ズ、發、達、費、シ、マ、セ、ン、各、方、面、ニ、使、用、サ、レ、ル、土、管、ハ、需、要、ニ、應、ジ、難、ク、シ、テ、購、リ、マ、ス、ル、ニ、リ、マ、ス、何、分、セ、ノ、ト、不、足、ノ、爲、土、管、ノ、使、用、ガ、増、加、發、達、シ、テ、購、リ、マ、ス、ル、ニ、反、シ、土、管、三、ト、ン、ヲ、得、ル、爲、ニ、石、炭、一、ト、ン、ヲ、要、シ、マ、ス、ガ、此、ノ、方、面、ニ、石、炭、配、給、ガ、不、足、デ、出、來、ナ、イ、ノ、デ、ア、リ、マ、ス、モ、ル、タ、ル、管、ガ、一、割、ア、ル、ト、暗、渠、排、水、

日本經濟年報 昭和十三年 農林部

ハ州來ルト思ヒマス一ト、ソノセハソトガアルト一町歩ニ對シ州來ルト
思ヒマス十ヶ年間ニ五萬町歩ヲヤルトセバ五萬トソノセハソトガイル
事ニナリマスガ大部分土管ニシテ其ノ一割ヲモルタル、管トシテヤルト
スレバ一割即チ五千トソノアレバ良イコトニナリマスノテ大體其ノ後ニ
計畫シテ居リマスカラ其ノ程度ニ配給スルカト存ジマス然シ電力交渉
致シマシテ期待ニ添ヘタイト存ジマス、燃料ハ濠洲用排水ニテハ
エソソハ使用シテ居ルノニハ重油ガ必要トナルノデアリマスガ用水用
ハ八割配給スル機資材部ト連絡シテ居リマス、用水機ハ小瀬ノモノハ
農具ノ資材トシテ配給サレマスガ大キナモノハ一般工業團體ニ製作ス
ルノテ濠洲團體トシテ交渉セネバナリマセン、ドノ程度ノモノデスカ解
リマセンガ早クヤリタイト思ツテ居リマス電機機ハ比較的間ニ合フ見
込デアリマス。

宮城縣

増産問題ニ付キマシテハ本省ノ格別ノ制盡力ニ對シテハ感謝ノ儀ア

内閣

リマセン本縣ハ指導本部ヲ經ニ設置シ郡、市町村ニモ設置シテ居リマ
スガソレ等ノ指導部ハ非常ニ熱心デ心強ク思フガ技術員ノ不足ニハ困
難シテ居リマス第一續ニ備ク爲ニ大體支障ガ生ジテ居ルノテ前途中心
配シテ居リマスガ待遇問題等ノ爲技術員増員確保ニ困難シテ居リマス
カラ何分ノ御配慮ヲ願ヒタイトデアリマス、尙一般のデハナイガ農
業整理ノ御通達ニ依リマシテ整理ノ上大體、農務等ヲ補付ケル機
助致シテ居リマスガ屬給養ノ種ガ足ラヌ懸念ガアリマス大體二百町歩
不足スル見込デアリマス、折角整理ハシタガ補付ケルモノガタイトナ
リマスト問題ガ生ズル事ニナリマスガ御見込ヲ承ハリタイト。

農産課長

町村技術員ノ事ハ重大ナ問題デ方針ノ徹底如何ハ實績ノ別レ目デア
リマスカラ此點充分ノ御指導ヲ願ヒタイト、技術員ガ應召、轉職等ノ爲
ニ不足スルノハ甚ダ遺憾デアル、昭和十六年度ニ増置シタイト計畫デア
ツタガ破レテ仕舞ツタ爲ニ今デハ計畫ガナイガ設備金ノ支出ヲ要求サ

レルト思フ唯ニ角人ヲ増ス事ガ必要デ現在以上備カセル事ハ出来ナイ
状態デアルカラ寄附ガ少シ位足ラナクトモソレヲ充當シテ行キタイト
思フ、豫備金支出ノ關係ヲ考慮シテ見マスト手當ノ増加ト増員トナ
半位ニ出来ルノデ有ラウカト存ジマス尙増産増進員ヲ精査、篤志家
ニ委嘱スル豫定デ(區廳委員)實ハ都元備ニ發令スル豫定デアリマシ
タガ何セ非常ノ數ニナルノデ甚ニ其ノ選ビニ至ラナカツタ後ナ次第デ
アリマス、指進員ニナラレル方モ多忙ヲ御迷惑デアルガ此般格別ノ御
努力ヲ願ヒタイト存ジマス備カデモ手當ヲ出シタイト豫算ヲ要求シマ
シタガ被レマシタノデ現在ハアリマセンガ豫備金ノ支出ガ出来ルト思
フ、町村ノ技術員ノ増加、指進員ノ設置ノ二途ヲ進ム計畫デアリマス、
農園ノ關係ハ私ハ關係ガナクハツキリセナイガ充分豫算ノ準備ガサレ
テ賄ルト思ヒマス、サレテ賄ラネバナラント思フガ一般的ニ全國的ニ
不足シテ賄ル難デスカラ其ノ邊境然致シマセン其ノ旨係ノ方へ申傳へ
マス。

内閣

農務副總長

一寸御聞キ致シマスガ今年ノ異狀天候ハ從來ノ狀況カラシテ影響ス
ル所ハ如何ノモノデアリマセウカ。
農事試験場長

ハツキリ申上ゲ候ネマス相當異狀ノアル事ハアルガ其ノ異狀ガドウ
影響スルカヲ只今考ヘテ賄リマス、農務氣象學ノ見地ガ大切デアリマ
ス只今ハ農務氣象學ハ進歩シテ賄リマスガ夫レダケデハ足リマセン氣象
ガ考ヘラレテ行カネバナラント思ハレマス現在ハ農務地理學ハサンエ
スニ入ツテ賄リマセン教育上研究上ノ缺陷トモ申スベキデ是非農務地
理學ヲ必要トサレマス、數年來片手間ニヤツテ賄リマスガ今年ノ氣象
トノ關係ヲ顧シ合セテ見タイト思フ從來ノ關係カラ見ルト六月前後ニ
雨ハ來ルデアラウト考ヘラレマス甚ダ驚人者ヘデアアルガ昨年ハ當ツテ
賄リマスコレカラノ氣象狀態ガドウナルカニ依ツテ決定致シマスガ東
北地方ナラバ暖イノハ甚支ナイバカリデナク良イト思ハレル、雪ノ少

ナイコトハ早魃ノ點ガアリ、其ノ虞ノ無イ事モナイガ雨量ノ關係ヲ申シマスト東北地方、關東地方ハ五、六月ト上リ、七月ニ下リ、九、十月ト上ガル傾向デ中國地方ハ五、六、七月ト上リ、八月ニ下リ、九州ニ行クトモツト下ル、此八月ノ雨量ノ不足ガ早魃トナルデアリマス、中國地方ハ灌溉水利ガ發達シテ居ルカラ雨量ノ下ルコトハ凶作型デナク太陽日射ノ増加トナリ豐作型トナルデアリマス、東北地方ハ早害ニナリ難イガ反動的ニ氣候ガ寒クナルト首フ氣象學的變化ガアルカラ心配デハアルガ、今ノ所氣象學的ニ證明サレルコトハナイカラ心配ハイラヌト考ヘラレル、然シ何時來ルカ判ラヌトシテ常ニ用心スルコトガ一番良イト思フ。

福島縣

御願ヒシタイノハ技術員ノ増員デアリマス、農家ハ非常ニ熱心ダガコレニ接シテ指導スル人ガ不足シテ居ル、現在ノ人ハ資材配給等ノ事務ニ忙殺サレテ如何トモスルコトガ出來ナイ、第一線ニ働ク人ガナイ

内閣

ノデ困難致シテ居リマス、待遇ノ關係ニシテモ郡農會ハ月七十五圓、町村ハ五十五圓、教員ハ手當ハアルガ技術員ニハナイト云フ様ニ待遇ガ惡イ爲ニ逃腰デ居ルノガ多イ状態デアリマスカラ、コレ等ノ問題チ充分ニ御考慮チ御願ヒ致シタイト存ジマス、尙コレニ關聯シテ農會ノ技術員養成施設チ講ジテモ希望者ガ不足デ困難シテ居リマスカラ待遇ノ向上チ圖ツテ頂キタイ、豫備金支出ハコレチ有效ニ使ツテ頂キタイト思ヒマス、次ニ農家ノ氣持チ増産ニ向ケネバナラント存ジマス、勞力ノ不足カラシテ草取りモ三四カラ二回ニ減ジ休閑地モ荒廢地ノ生ズルコトモ熱心サガ缺ケル爲デアリマスマイカ、勿論農作物ノ利潤ノ薄イ點モ考ヘラレ價格モ關係アラウガ已ムチ得ナイ處ハ仕方ガナイトシテ、何トカシテ必要ノ勞力ハ農村ニ殘スコトチ御考慮チ願ヒマス、尙米ノ消費規正ノ問題モ考ヘネバナリマセン、農家ニノミ規正スル考ヘ方チ與ヘテハナリマセン、先般來全國的ニ標準規正チスル話ガアツタガ延々ニナツテ居ル、早ク消費規正チ極メテ全部ノ人ガヤルト首フ

考ヲ持タセル方ガ良イト考ヘラレマス、今一ツ氣象關係ノ事デアアルガ
霖雪濕潤ノ關係カラ見テ雪ガ解ケテ流レル地下水モ高ク古老ノ雪ヲ集
メテ見ルト大體ニ於テ先ヲ憂ヒテ居ル狀況デアリマス、調査所ヲ開ベテ
見マシタガ昭和十六年度ハ下リ坂ニナツテ居ル様デ雪積研究所ニ開ヘ
テモ用意シタ方ガ良イト言フノデ憂慮サレルノデアリマス、心配ナノ
ハ早急デアツテ其ノ對策トシテ關係方面ト連絡シテ溜池ノ整備等ヤツ
テ居リマスガ豫算ガナイノデ充分ニ出來ナイデ困難シテ居リマス、影
響ニ付テハ統計的ニアルナラバソレニ依ル方ガ良イノデアアルガ具體的
ニ談スルト注意スル様ニナルノデ人心ニ影響スル事モ考ヘネバナラズ
過去ニ於テハドウカト材料ノ蒐集ヲ致シテ居リマスガ良イ材料ガアリ
マシタラ敷ヘテ預キタイト存ジマス。

農事試験場長

潤候所デハ四十年以上ノモノガアリマスノデ夫レ等ノ各年ノ氣象型
チヤリカケテ居ツタガ完成致シテ居リマセン早速ソウ言フ事ナラバヤ

内閣

ツテ見マセウ、謂ベテ参考ニ致シマセウ。

岩手縣

各縣ノ御希望等デ大體了承サレマスガ肥料ノ事ニ付テ御伺致シマス
從來私ノ縣ハ有機質肥料ヲ多ク使用サレテ居ルガ魚粕大豆粕各八千ト
ンヲ要スルノデアリマス然ルニ有機質肥料ガ僅カニ二、三割デ實際不
足スルノデアリマス從ツテ實績ノ向上ガ出來兼ねマスカラ有機質ヲ澤
山配給シテ預キタイト存ジマス。

農産課長

農家ニ熱心サガ無イノハ増産ニハ一番困ル問題デアリマセウ、利益
ト云フ事トナルト價格ノ問題トナルガ種々ノ事情デ困難デアリマセウ
議會デモ増産問題ニハ價格ガ付テ居リマス、一般物價トノアン
ハランスガアリマスルト同機農作物ノ間ニモアンハランスガアリマセ
ウカラ其ノ平衡ヲ保ツ必要モアル重要問題デアアルガ十五年度産米ハ總
額ニ種上ダセナイ十六年度ハ慎重ニ考ヘテ見ルトアリマスカラ何等カ

ノ點モアラウカト考ヘラレマスガ、ナケレバソレ迄デアリマセウ、然
シ只今ハ國家危急ノ場合ダカラ増産ニ熱意ヲ持ツテ頂キタイ、指導者
ノ養成ニ就テハ中堅青年ノ訓練ノ計畫ヲ致シテ居リマスガ、度々申シ
上ゲル如ク國家ノ食料問題ハ危機一髪ノ間ニアルト申スベキデアリマ
スカラ乏シキヲ忍ンデ増産ニ御努力願ヒタイ、況ンヤ減少スルガ如キ
コトアラシキ、國家トシテ重大ノ問題トナリマス、食糧ノ不足ハ何モ
ノヨリモ痛切ニ感ズルモノデアリマス、軍部ノ方モ糧秣ノ彈ガナケレ
バ長期戦デ二月ヤ三月ハ耐ヘ得ルガ食糧ハソウハユカン、一日デモ耐
ヘル事ハ出来ヌ、若シモノ事ガアレバ大陸ヨリ手ヲ引カネバナラン、
然リトスレバ巨額ノ經費多數ノ生靈ニ對シテ何トシテ報ユベキデアラ
ウト申サレテ居リマス、事實、今日我國家ノ状況カラシテソウシテ實
フヨリ外ナインデアリマスカラ、價格ノ問題ハ充分ニ考ヘラレテ居ル
ガ一般物價ニ準ジテ上ルコトモ下ルコトモ困難ノ事情ニナツテ居リマ
ス、成程、算盤チハジケバ米價ハ生ジテ來ナイデアリマセウガ、時局

内閣

ノ重大サチ考ヘテ納得シテ賞フヨリ外ニ無イ事情ヲ訴ヘテ承知シテ實
ヒタイト思ヒマス、岩手ノ有根實ガ不足シテドウニモナラヌトノ事デ
スガ、御承知ノ如ク滿洲大豆ガ不作デアリマシテ四百八十萬トンノ生
産ガ三百數十萬石ニ減ジテ居ルノデ自然的減少トナツテ居ルノデアリ
マス、魚肥モ漁獲物ノ數量ニ依ルノデアアルガ出漁ノ爲ニ要スル重油ガ
ナイ、漁船ガ發發サレテ漁獲高ガ減少シテ居ルノデ致シ方ガナク、有
機質ノ濃ヘ無機質ガ來ル、硫安ノ處ヘ石灰ガ來ルト云フ様ニナツテ居ル
ノデアリマスカラ、コレハ施肥ノ改善ヲ御願ヒスル外ナイト思ハレマ
ス、自給肥料ニ就テ特ニ御努力ヲ御願ヒシテコレヲ補ツテ頂キタイ、
然シ事情ガ判然シテ來マシタ爲カ、肥料配給ニ付テノ要望ハダンダン
少クナツテ參リマシタ、配給モ相當ニアル關係モアリマセウ、大豆粕
ハ減ジテ居ルガ他ノ肥料ハ總テ補ハレテ居ル等デアリマス、消費量ガ
増エタノデ其ノ様ニ感ズルノデセウガ量トシテハ必ズシモ不足デハナ
イト思フ、縣トシテ從來トノ配給ガ變化シテ居ルカモ知レマセンガ、

コレハ最正シタイト見フ、肥料ノ配給ニ就テハ充分ニ考慮シマスカラ
ラ懸トシテハ技術ヲ最高度ニ發揮スル時トシテ充分配給ヲ期願シ
マス。

岩手縣

他ノ縣ニ就テモ増産ヲ計畫シテ居リマスガ、ソレニ對シ助成ハア
リマセンガ縣ハ財政上出来ナイ現状デアリマスカラソレ等ニ就テモ助
成ヲ期願シタイ。

福島縣

農家ノミノ犠牲ヲ拂フノデハナイト云フ觀念ニ與ヘル機其ノ端皆チ
權威セシムル必要ガアラウト思フ、夫レカラ農家ニ對シテハ物質上ノ
價格ノ問題デナクトモ精神的ニ獎勵スル方法ヲ講ジテ頂キタイ、何等
カノ方法デ表彰シテ頂ク事モ良イト存ジマス。

興業會社副總裁

御挨拶ヲ申上ゲタイ、御承知ノ如ク東北興業會社ハ東北地方ニ於ケ

内閣

ル殖産興業ニ盡シタイト思フガ其ノ爲ニハ東北ノ農業界安定ヲ計ラネ
バナラント考ヘマス東北興業トシテ仕事ヲスル上ニ農業界ノ安定ガ條
件ノ一トナリマス、夫レガ爲ニ屯ニ角農作物ノ減産セヌ様期願シタイ
安定セナイ原因ハ危險ノ多イ此地方ニ保險制度ガ徹底セヌ事ガ第一ト
思フカラ耕作保險等ヲ考ヘテ農村ニ最低限度ノ保證ヲ與ヘテ頂キタイ
ト農林省ヤ地方ノ方々ニ私ノ個人ノ意見トシテ御願致シタイ、素人デ
アリマスカラ意見デハアリマセンガ多年百姓チヤツテ居リマスル體験
ヲ申上ゲタイ、東北ハ冷害ニハ屢々逢ツテ困難チ感ジテ居リマス、昭
和九年凶作ノ當時北海道ノ松岡農場ニ温泉ノ實驗チヤツテ居ツテ成績
ガ良イト聞キマシテ郷里カラ篤農家チヤリマシテ實驗シテ見マシタガ
篤農家デアリマスカラコレハ成功致シマシタソコデ啞談會モヤツテ種
種普及シヤウトシタガ輪リ普及致シマセンデ了ツタガコレハ管理ガ面
側デアリ作ノ良イ時ハ忘レテ而側チ省クカラデアリマセウ、村デ發達
致シマセヌカラ東京カラ送ラウト云フ事ニシテ私ノ畑ニ試作シテ見マ

シタガ、昨年ハ確カニ良カッタト思ハレマス、然シ夫レモ篤農家デア
ツタ爲ニ平年作ドウ言フ優劣ガアツタカ降リマセン、其ノ他運賃ノ關
係等制ニ合フノカドウカ判リマセンガ、尙續ケテヤリタイト思ヒマス、
私ノ實驗ヲ別冊デ御承知チ願ヒタイノデスガ、實驗ノ成績ハ十ヶ年ノ
成績デアリマス、水田ト畑作トノ收益ノ比較表ガ付イテ居リマス、此
ノ表ニ依リマスト其ノ成績ハ畑作ガ良イト云フ結果ニナツテ居リマス、
アノ邊ノ土地ヲ利用サレマス參考ニ致シタイト存ジマス、肥料ノコト
ハ鶏糞ヲ利用スルコトニシテ居リマスガ、其ノ飼料トシテハ畑ノ周圍
ニ玉蜀黍、ヤキビチ植付ケテ養鶏ヲ盛ニシテ其ノ糞ヲ利用シテ成績ヲ
擧ゲテ居リマス、金肥ニ關スル過去ノ實情カラ見テ餘リ利用シ過ギル
カラ充分ニ研究シテ頂キタイ。

試験場長

此ノ機會ニ申シ上ゲテ置キタイコトハ實ハ一昨年東北帝大農學研究
所長ノ役目ヲ引受ケテ居リマス關係上、東北地方ノ農業ニ就テ其ノ見

内閣

地カラ施設シテ見タイト思ツテ居リマシタガ、研究所ノ官制ノ關係カ
ラ遲々トシテ進マナカツタガソレモ充實致シマシタノデ愈々進ノタイ
ト思ヒマスカラ御協力ヲ御願ヒスル、七戸方面カラ馬産地ニ飼料ガ不
足シテ居ルシ牧場ノ荒廢地モアル一面馬産地トシテ馬産ノ振興モセネ
バナラズ、牛馬ノ飼料ヲ増産シタイトノ話ガアリマシタガ、牧野關係
ノ專任モ極リマシタシ、軍馬補充部トカノ土地ヲ借リテ飼料ノ増産チ
ヤリタイト考ヘテ居リマス、然シ牧野荒廢地ノ利用ハ技術的ニ困難デ
アリマセウ、水ノ流失ヲ防ガネバナラズ種類モ改良チ加ヘテ行カネバ
ナラシデアルカラ、コレ等ハ切離サズ七戸町方面ハ馬産地方トシテ農
業ヲ合理的ニヤツテ行キタイト思フ、研究者ノ立場ハ農業上ノ有效策
ヲ求メ一段二段ト進ムノデアルガ、農家ガ何時デモ一段ニ踏ミ止マツ
テハ何ニモナラン、一人々々ノ農家ヲ理解セシムルコトハ困難デア
カラ部落團體等チ一團ノ農場ト考ヘテマネー、ジャイ、ガ居ツテ一定ノブ
ランチ持ツテ理解シテ行クト言フ方法モ考ヘラレル、然シコレハ共産

主権的考へテハナイ、出来レバ七戸方面デモヤツテ行キタイ、仙臺ナ
ラバ其ノ地方ニ適地ガアラバ有地の結合シテ農場指導ノ氣持デ進ム技
術ヲヤツテ日本ヲ作リタイト考へテ居リマス、新シイ発見ガアツテモ
ソレチ實際的ニヤル場合ニヤル農家ニヤル事ハ容易デナイ温床ノ設シ
ノ通りテ實際的理解ガ必要デアリマセウ、今後吾々ノ仕事ニ御援助頂
ク場合ガ多イ事ト存ジマスガ東北局、其ノ關係ノ農會社ニ場合ニ依
ツテ御願スル機會ガアル事ト存ジマスノデ研究所ノ内容ヲ御談シテ御
願由上ゲマス。

青森縣

只今局長ノ御談モアリマシタガ荒廢牧場ハ補助ニ利用スル事ハ困難
トアリマシタガ私ノ言フノハ平地牧場ノ事デ非常ニダニガ發生シテ馬
ニ困難ヲ與ヘル、火入レチシテ驅除チヤルノガ一番良イノデアアルガ國
有林ノ近クトカ人室ガ近カツタリシテ火入レガ出来ナイ、ソレガ爲ニ
荒廢スルノデアリマスガ轉換シテ高原地ニ換ヘレバ良イノデスガ國有

内閣

林ガ多クデソレモ不可能トナツテ居ル、此様ナ食糧増産ヲ必要トスル
場合ハコレチ適當ニ轉換サセテ平地ハ開墾シ國有林ノ中カラ牧場ヲ與
ヘテ實フ様希望スル次第デアリマス、ドウゾ農政、山林、農政各局ト
連絡シテ頂キタイト存ジマス。

農事試験場長

ダ、ニノ發生ハ非常ニ困ル問題ダガ人員整へ次第研究致シマセウ。

青森縣

尙一三希望チ由上ゲタイ、夫レハ泥炭地ニ變スル客土ノ問題デ此泥
炭地ニ客土スル事ニ依ツテ相當増産ノ見込ガアリマス其ノ面積ハ約一
萬二千町歩ト推定サレマスガ其ノ必要地カラ積積的ニ獎勵致シタイノ
デ補助モ出来得ル限リ増殖チ願ヒタイ、尙無機質肥料ノ減少ヲ補助フ爲
ニ自給肥料ヲ作ラネバナリマセンガ夫レガ爲ニ畜舎改造ノ必要ガアリ
マスコレハ時ニ青森縣ニハ必要デアリマスガ補助ノ關係上改造サレヌ
モノガ多イ此方面ノ補助ヲ御願ヒ致シタイ。

青森縣ノ補足

客土ノ效果ハ一般農家モ認メテ其ノ申込數ハ相當數ニ達シテ居リマ
ス、客土ニハ一定ノ稈積量ガアル様デアルガ三寸ノ客土チ一寸位ニヤ
ツテ頂キタイ、ソレデモ充分ノ效果ガアル様デアルカラ其ノ點考慮シ
テ良イカト思フガ御意見ハ如何デアリマセウカ、縣農事試験場モ一寸
カ一寸五分デ良イト申シテ居リマス、厩舎ニ付テハ昨午會議ノ席デ申
シ上グマシタガ、其ノ際農産課ノ方カラ良イト言フ御話デ夫々計畫致
シマシタガ款目ニナリマシタガ。。。。。厩舎ノ實情ヲ述ベテ。。。
是非考慮シテ頂キタイ。

農産課長

厩舎ノ助成ハ相當ノ豫算ヲ見テ居ルノデ其ノ様ナコトハ無イト思フ
ガ。

青森縣

私ノ方ノ話ハ僅カノ改良ヲ望ムノデアリ窓等ニハ補助ハアルガ、尿

閉

溜等ニハ補助ハ來テ居リマセン。

農林省技師

相當ノ補助金ガアル筈デ其ノ様ナコトハナイト思フガ、良ク調査シ
テ見マセウ。

山形縣

私ノ方ハ昨年ハ平年作ヲ得マシタガ増産目標迄ハ行キマセンノデ、
本年ハ是非共目的ヲ達成スル考デアリマス、其ノ爲ニハ農家ニ其ノ氣
分ヲ持タセルコトガ根本方針デアリ、部落會ヲ利用スルコトガ重要ト
考ヘラレマスノデ、部落ヲ單位トシテ農事ノ施設ヲヤリタイト考ヘテ
居リマス、精神の方面ニ於テモ種々施策ヲ考究シタイ計畫デアリマス、
昨年悪カツタノ山間地方デ「イモチ」ノ爲作柄ガ悪カツタノデ冷害
対策トシテ「イモチ」ノ豫防ガ大切ト考ヘラレル、豫防ニハ金ノカ
カラ又點ハ出來ルガ蠟燭等ノ使用ニウマク行カヌ、早期發見ナシタイ
ト努力シテ居リマス。出來ルナラバコレ等ノ補助モ考慮シテ頂キタイ、

温床苗代ハ七萬坪アツテ助成ヲ受ケテ居リマスガ、今年モ三萬坪位アル見込デアリマス、圃苗代板圃苗代モアルガ、冷害対策トシテ助成シテ頂キタイ、肥料關係デ過燻燻肥料ノ不足ガ減收ノ原因ヲ爲シテ居ル様デ昭和九年ノ冷害ノ結果カラ見テ明デアル、最近特ニ不足シテ居ルガ已ムヲ得ナイ事デアラウガ、東北地方ニ別途ニ配給シテ頂キタイ、最近金肥ノ補充トシテノ自給肥料ノ増産ニ努力シテ居ルガ、原料ニ困難ヲ來シテ居ル、國有林デモ下草ガ少クナツテ居ルカラ新シイ採草地ガ必要デアルカラ當局ノ御配慮ヲ望ミマス、青刈大豆モ昨年同様ニ作付ケシタイト思フ、尙綠肥ノ種子ノ配給ヲ多量ニ御願ヒ致シタイ、甘藷、屬餘薯ヘ七割以上ノ増加ヲセネバナランガ桑園地ヘ既ニ利用サレテ居ルノデ利用地ニ困難ヲ來シテ居ル現状デアリマス、農作物價格ハバランスノトレル様ニ御願ヒ致シマス。

秋田縣 苗代跡地ノ利用ガ大問題デアラウ、秋田縣デハ苗代ガ約四千五百町

内閣

歩アリマスガ、其ノ中二千三百町歩ガ利用サレテ居ルニ過ギナイ、コレチ大ニ利用シタラ良イト思ヘレル、縣令デモ制定シテ半強制ニシタナラバトノ意見モアルガ、來年ノ苗代ニ影響スルカラ慎重ニセネバナラント言フ事ニナツテ居ル、増産ト苗代跡地ノ利用ハ相當大キナ問題ト思フガ中央ノ御意見ヲ承リタイ、尙種々ノ獎勵金ヲ頂クニ内示ハ早ク頂キマスガ實際ノ指令ハ相當遅レマスノデ困難ヲ感ジテ居リマス、貧弱縣デハ内示ダケデハ金ハ出マセンカラ本指令ヲ早ク出シテ頂キタイト思フノデスガ、本省ノ御意見ヲ承リタイト存ジマス。

農産課長 通シ苗代ノコトハ從來カラ幾々問題トナルノデスガ、利用ハ強ク主張サレテ居リマス、通シ苗代假ニ就テハ原則トシテ實成デアツテ出來ルナラバ實行シテ頂キタイ、然シコレチ實行スル上ニハ通シ苗代ハ土質ガ非常ニ變ツテ居ルカラ客土スルカ、過燻燻ヲ入レルカセネバナランカラ其ノ用意ノ必要ガアリマス、ソレカラ其ノ前提トシテ普通苗代

日本經濟年報 下4 農林部 農産課

ニ苗ヲ育テル育苗ノ骨ガ大切デ育苗ガ完全ニ行ク自價ガ必要デアリマセウ、明治時代ニモ半強制サレタ事モアルガ其ノ當時育苗ノ技術ガナカツタ爲ニ失敗シタノデ肥料ノ關係モアツテ困難ノ點モアリマスカラ地方ノ農家ガ技術ヲ命得スル機ニスレバ良イト思ハレル、會場シタト言フ確信ガナケレバ多少ノ危險ガアリマス、要スルニ兩意ト育苗技術ガアレバ廢止シテ實ヒタイ、大體廢止ノ方針ニ異議アリマセン、計畫的ニヤラウカト考ヘテ即マシタガ今申シマシタ二ツノ點ガアツテ獎勵ニ止ノテ居ル次第デ安全第一ガ得價ト思ハレマス、獎勵金ノ指令ハ早ク出シタイノデアアルガ事務ノ手續上精々トモスルト遲レ申シテ申シアリマセン何シロ普通種、種金、追加種、種金ト復雜スルノデ今後ハ成ルベク早ク致シマセウ、縣ノ方モ多忙デ申請ニ對スル回答ガ遅レル事等モ原因トナリマセウ。

農事試験場長

選シ苗代ノ問題ハ技術上カラ見テ普通苗代ニスル事ハ可能デアル、

内閣

大體苗代ハ産産ノ種ノ良イ處、風當リノナイ處、家ノ近所ト言フ機ニ最も良イ地形ニアルモノデ其ノ利用ハ割合爲シ易イト思ハレル、跡地ヲ利用スルニハ墾荒ガ過剰ニナツテ居ルカラ客土等ヲ充分ニシテ改良シテ行カネバナラン更ニ育苗ノ技術ヲ納得サセル必要ガアリマス、然シ伸々困難デアリマセウ、殊ニ山開地ニハ固守スル所ガ多イ、安全ノ方強トシテハ普通苗代ヲ都落共同事業トシテ便利ノ處ニ設ケテ農家ガ共同的ニ實施スル、ソレガ成功シタナラバ地盤ニカカリ實際效果ノアル計畫ヲ漸ク實現シ易イ處カラ初メル事ガ一番良イ方法ト考ヘラレマス、植ヘナイ處ニ植ヘルト云フ風ニ簡單ニハ行カヌ、昔カラ論ジラレテ居ルガ未ダニ固守サレテ居ルノデアリマスカラ計畫ヲ漸ク個人的ニ出來ナイ場合ハ共同的ニ適任者ヲ定メテ苗ヲ造ツテ配分スル等ノ安全ナ方法ヲ實現スル方針ガ良イト考ヘラレマス。

農林省技師

青森縣ノ客土ノ細積ガアリマシタガ普通一反歩ノ客土ハ七坪五合ト

ナツテ活リマス、厚サニスレバ一寸二分トナリマシテ反當リ三十六圓ガ補助サレル事ニナツテ居リマス、各土ハ堰水ヲ除ク各土ヨリ改良ヲ目的トスル方ガ良イト思ヘレマス、尙各土ニハ冷害防止ノ爲ニスル各土モアリマスシ粘土ニ對シテ砂土ヲ入レル場合モアリマス、全國デ約十圓萬町歩必要トサレマスガ、十ヶ年計畫ハ八萬町歩トナツテ居リマシテ殆ンドガ東北地方ニ施行サレル計畫デアリマス。

秋田縣

通シ苗代ノ假止ハ秋田縣ハ既ニ二千町歩モアリマシテ一度ヤリ出ストヤツテ仕舞フ様デアルカラ事情ノ以テ居ル處ハ是非ヤツタ方ガ良イト思ヘレル、天候關係ニ就テ申シマスト今年ノ雪不足ハ地肥ノ運搬ニモ困難シテ居ル實情デ農家ハ非常ニ不安ヲ感ジテ居リマスカラ、氣候關係ノ調査ヲ御願ヒシテヒントヲ得ル様ニ致シタイト存ジマス、昨年ノ増産ノ出來ナカツタコトハ冷害ニ近イ不良天候ノ爲デ本年ハ早く作付ヲ進メル方針デアリマス、肥料ニ就テ申シマスルト田植準備チス

内閣

ル肥料ガ來ナイトナルト心配ガ多クナル、遅クナツテカラ來テ追肥ノ形トナルト「イモチ」ガ發生スル、昨年ハ其ノ爲ト首ヘレテ居ルガ、冷害不良天候ニ對シテハ充分御考慮ヲ御願ヒ致シマス、尙雪ガ少イ、山ニモ雪ガ餘リナイノデ貯水力ガ足ラヌ事ト考ヘラレマスガ、ドウスレバ備置ニコレチ防ギ得ルカ殊ニ東北ハ空梅雨デアリマスカラ尙心配トナルノデアリマスガ、対策ノ御研究ヲ御願ヒ致シマス。

農産課長

東北地方ハ平年ナラバ過剩ニアルノデスガ、今年ハ不足スルト首ヘレル、溜池ニ満水スル迄ニハ行キマセンカ。

耕地課長代理

雨量ノ點ハ昨年ノ十月ヨリ正月迄ノ降水量ハ雪ヲ通算シテ北日本全部ヲ集計シタ結果、青森縣ハ比較的良ク平年ノ一割六分ノ減少デ最も少ナイ處ハ六十パーセント不足シテ居ル處モアリマス、其ノ狀態カラ見マスルト普通ノ年ハ二月迄ハ役ニ立ツガ、其ノ後ノ雪ハ爲ニナラン

ト雷ハレマスノデソレ等カラ申シマスト畢賽ノ憂ハアル様ニ思ラレマ
ス、昨年ノ畢賽ニ體ミテ雷管ヲ考ヘタイト照ヒマスカラ各縣ノ事情ガ
分レバ早ク雷管ヲ購ジタイト存ジマス、昨年ハ運カツタ様デアアル、夫
レニ付テノ雷管ハ奇材購ト連絡シテボ、ン、ブ、ノ利用ヲ購ズル事ガ必要デ
アリ陸水ノ出来ル處ハ其ノ方法ヲ購ズル必要ガアル、燃料ニ就テモ本
年ハ昨年ヨリ以上ニ必要ガアルト考ヘラレマス、昨年ハ「セントヒユ
ーガル」チ三千番、「パチカル」チ二千番ヲ購入致シテ雷管ト致シマ
シタノデアリマス。

農事試験場長

五月頃迄畢賽デ水田ガ一時畢賽スルト有様ノ觀察ガ有效ニナツテ東
ルノデ雷肥料チヤルト種熱病チ發生致シマスカラ注意ヲ要シマス、龜
ノ尾チ捕エタカラ種熱病ガ發生シタノデアリマセン、五月迄畢
天ガ晴イタカラ充分ノ御注意ヲ御願シマス、昨年各縣カラ土チ買ツテ
研究シマシタガ非常ニ肥エテ居リマシタ「イモチ」ノ出ルノハ觀察

内閣

デアラウトサレテ居リマス。

東北局長

ソレデハ時間モアリマセンノデ會議ハ閉ジマスガ食事ノ用意迄多少
ノ時間モアリマスカラ個人的ニ御談シ合テ御願シマス、御苦勞デアリ
マシタ。

東北地方食糧増産懇談會

(昭和十六年二月二十日
於上野精養軒)

開 催 次 第

- 一、開會挨拶 内閣東北局長
- 一、農林省關係 演述 農 産 課 長

農事試験場長
耕地課長

一、質疑 應 答

- 一、各縣ノ希望意見開陳 宮城、福島、山形ノ各縣

一、質疑 應 答

- 一、東北興業株式會社 副 總 裁

- 一、各縣ノ希望意見開陳 岩手、青森、秋田ノ各縣

一、質疑 應 答

- 一、閉 會 (午後六時頃)

備 考 懇談會終了後晚餐

東北地方食糧増産懇談会出席者

一 農林省

農産課長

森 謙一郎

農林技師
(幹地課長代)

野村 電之進

警尾 久藏

上 遠 章

安城 敏 男

下山 一 二

一 農林省農事試験場

技師 長

寺 尾 博

野 入 松三郎

木下 周 太

一 宮城縣

經濟部長

有 松 昇

内 閣

一 福島縣

農産課長

前 田 弘

地方農林技師

古 宇 田 清 平

經濟部長

高 野 長 春

農水産課長

近 藤 正 彦

農事試験場長

赤 田 重 雄

一 岩手縣

經濟部長

高 橋 良 麿

地方農林技師

村 井 光 吉

一 青森縣

經濟部長

野 村 萬 作

農産課長

阿 部 健 吉

地方農林技師

阿 部 健 吉

一、秋田縣

農水産課長代 沖田 正
 林業課長 古市 與一
 地方農林技師 市川 岩藏
 農事試験場長 佐本 榮次郎

一、東北興業株式会社

經濟部長 大庭 電一
 地方農林技師 小林 虎一
 農事試験場長 山口 巖太郎
 總務課長 川越 丈雄
 農務課長 菅米 地三
 山田 中 鯨 治
 關谷 利次

内閣

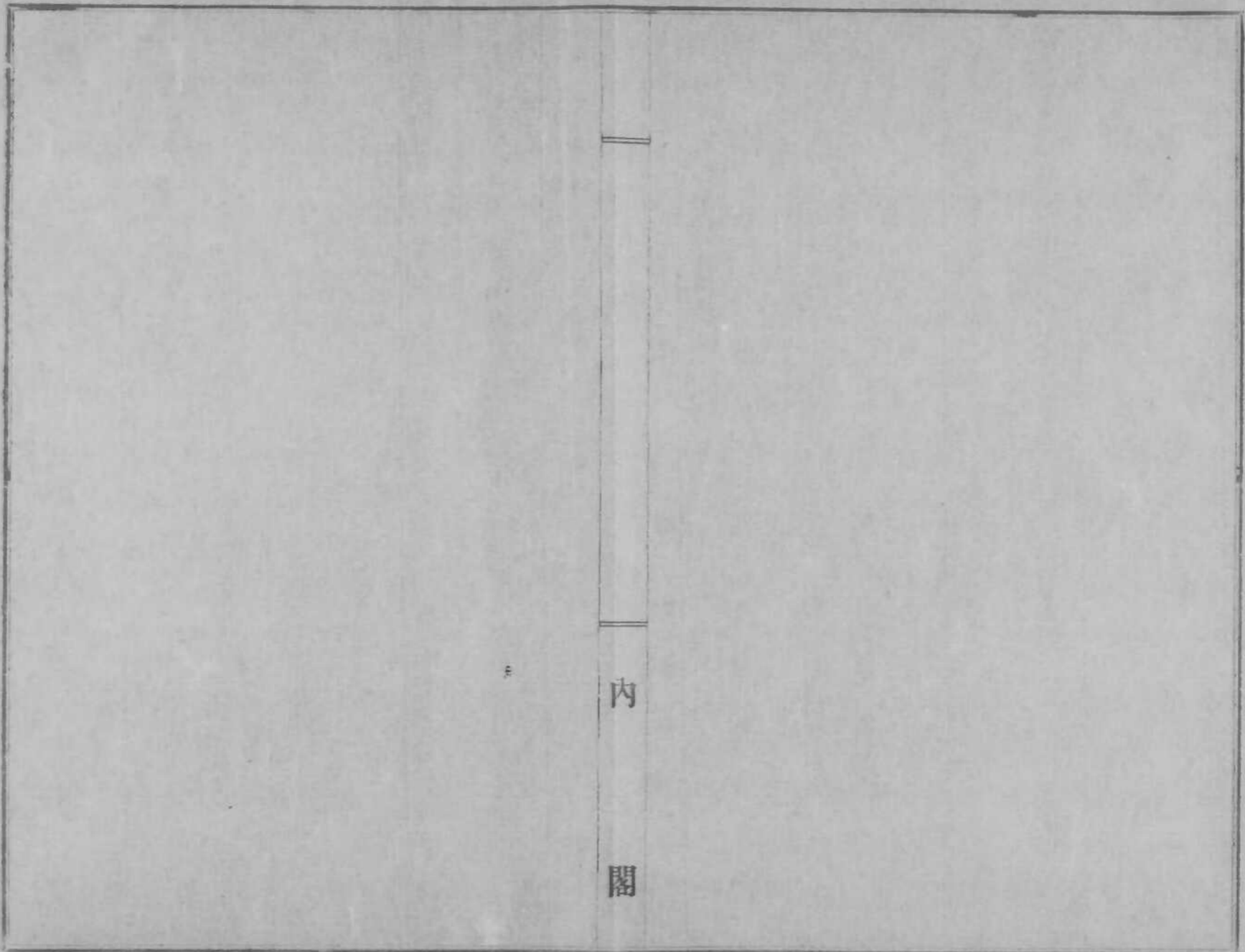
一、東北産業科學研究所

所長 二瓶 貞夫

一、内閣東北局

局長 宇都宮 孝平
 書記 石川 武平

外ニ傍聽者トシテ東北興業株式会社關係部課長並ニ内閣東北局員參會



内

閣

東北地方食糧増産懇談會出席者

一、農林省

農産課長 森 肆郎
 耕地課長 森 三郎
 農林技術師長 久 藏
 農林技術師 尾 久藏

一、農林省農事試験場

場長 寺 尾 博
 技師 鹽 入 松三郎
 木下 周 太
 田 杉 平 同

一、宮城縣

經濟部長 有 松 昇

一、福島縣

農産課長 前 田 弘
 地方農林技師 古 宇 田 清 平
 經濟部長 高 橋 良 磨
 地方農林技師 村 井 光 吉

一、岩手縣

農事試験場長 赤 田 重 雄
 經濟部長 高 橋 良 磨
 地方農林技師 村 井 光 吉

一、青森縣

農産課長 館 野 電 治
 地方農林技師 阿 部 健 吉

一、山形縣

農水産課長 大 沖 保 正
 地方農林技師 市 川 岩 藏
 農事試験場長 佐 本 榮 次 郎

一、秋田縣

經濟部長

大 麻 寬 一

地方農林技師

小 林 虎 固

農事試驗場長

山 口 巖 太 郎

二、東北興業株式會社

總 裁

川 越 丈 雄

副 裁

苦 米 地 義 三

理 事

山 中 鍊 治

監 事

龍 野 昌 之

監 事

關 谷 利 次

監 事

二 瓶 貞 夫

三、東北振興電力株式會社

監 事 子 爵 織 田 信 恒

四、東北産業科學研究所

一、内閣東北局

所 長 金 森 太 郎

局 長 宇 都 宮 孝 平

書 記 官 石 川 武 平

外ニ傍聽者トシテ東北興業株式會社關係部課長並ニ内閣東北局員參會

東北地方食糧増産懇談會

(昭和十六年二月二十日
於 上野精養軒)

開 備 次 第

- 一、開 會 授 揚 内閣東北局長
- 一、發 林 省 關 係 演 述 農 產 課 長

農事試驗場長
耕 地 課 長

一、質 疑 應 答

宮城、瀋陽、山形ノ各縣

一、質 疑 應 答

副 總 裁

一、東 北 興 業 株 式 會 社

岩手、青森、秋田ノ各縣

一、質 疑 應 答

一、閉 會

(午後六時頃)

備 考 懇談會終了後晚餐

東北地方食糧増産懇談會開催次第

昭和十七年三月六日午前十一時—午後三時

- 一、開會挨拶
- 一、農政局長挨拶
- 一、農林省農事試験場場長挨拶
- 一、質疑應答
- 一、各縣ノ意見希望（宮城、福島、岩手、青森、山形、秋田各縣各十五分以内）
- 一、質疑應答
- 一、閉會

東北地方食糧増産懇談會出席者

昭和十七年三月六日於法曹會館

農林省

農政局長	岸
農政課長	蓮池
農産課長	森
特産課長	坂田
耕地課長	溝口
畜産課長	田口
農産保險課長	平山
農林省農事試験場	寺尾
場長	博

宮城縣

經濟部長	有松
農務課長	鈴木
地方農林技師	古子田
經濟部長	野村
農林技師	藤田
	萬作
	清平
	武昇

岩手縣

經濟部長	和久
農林技師	高橋
	祐吉
	雄

青森縣

經濟部長	福長
地方農林技師	阿部
農林技師	唐澤
	盛夫
	雄吉

山形縣

秋田縣

東北興業株式會社

內閣東北局

全

農水産課長
地方農林技師

經濟部長
産業課長

農事試驗場長
地方農林技師
農林技師

副總裁
理事
企畫部長

計畫課長
農水産課長

局長
書記官

三

大久保

鈴木
黒木

佐藤
高畑

桑原
山中

小泊

宇部
淺邊
戸嶋

司

豐太郎
富十郎

榮二
利克

信太
光徳

幹根
録治
吉助

重名

幸平
甲二
芳雄

食糧増産懇談會談事概要

一日 時 昭和十七年三月六日 午前十一時三十二分—午後四時

一、會 場 法曹會館會談室

一、談事概要

東北局長 昨年二月二十日同機十懇談會ヲ開催致シマシテ六縣ノ關係ノ方カラ御談シテ承リ大變稱ル感ガアリマシテ關係モ同様ノコトト存ジ今回再ビ開催致シマシタガ農林省、試験場、六縣揃ツテ御出席ヲ得マシテ雖有御座イマス、昨年ノ秋ノ作柄ハ氣候不順デ四縣ハ冷害ノ影響ヲ受ケマシタガ折角ノ努力ニ依リマシテ豫想シタヨリ良好デアリマシタ事ハ不幸中ノ幸ト申スベキデアリマセウ、過般ノ貴族院ノ豫算總會ニ東北地方ハ冷害ノ爲不作トナツテ昭和九年ト同様ダト心配シタガ存外良カツタノハ農林省、縣廳ノ關係者ガ縣命ノ努力ヲ下ノ力持チテシタ結果ダトノ意見モアリマシタ、今年是非國策ニ關連シ良作

ヲ得タイト存ジマスガ夫レニ付イテ御談合スル事モ御座イマスカラ時間ノ許ス限リ御協議ヲ御願ヒ致シタイト存ジマス、今日ノ順序ハ御手許ニ差上ゲテアル次第ニ依ツテ進行致シタイト存ジマシテ先ヅ農事試験場ノ寺尾先生ニ御願ヒ致シマス
寺尾場長 ソレテハ私カラ少シ申シ上ゲマス、東北地方食糧増産ニ就テ東北局ノ御主催デ懇談會ヲ御開キニナリマシタガ重要ノ時期ニ重要ノ問題ヲ御協議致シマスコトハ各縣ノ方ハ勿論私ノ方トシテモ誠ニ結構ノ事ト存ジテ居ルノデアリマス、只今東北局長ヨリ御談ノアリマシタ如ク昨年ノ氣候ハ稀ニ見ル悪天候デアリマシテ稲作ノ期間ヲ通ジテ昭和九年ニ匹敵スル不良デ到ル感ニ不作ヲ見ルニ至リマシタ事ハ時節不順ニ遺憾ノ次第デアリマスガ悪天候ノ爲豫想通りノ結果トナリマシタ事ハ止ム御座ナイ次第デアリマセウ、農林省ニ於キマシテハ昭和九年以來凶作防止ノ施設ヲ致シテ居リ縣ノ方モ凶作防止ニ努力シテ増産ニ努メラレタガ一時ハ悲觀ノドン底ニ陥チタ様ナ次第デアリマスガ然シ

思ヒノ外良ク成ニ依ツテハ英事ノ成績ヲ譽ゲタノヲ見マシテ感歎シタ
次第デアリマス、然シ實際技術的ニ見テアノ凶作ヲ相クニ至ツタノハ
残念ニ堪ヘマセン、勿論氣象ハワカリマセンガ不良天候ハ何時來ルカ
ワカラントシテ日常コレニ備ヘテ行クコトハ大切ノ事デコレハ全國至
ル處ニ適用スルコトデアリマス、技術上カラ見ルト増産ノ先キニ當リ
減收ヲ防止スルコトガ必要デアリ、不良天候ノ襲來ヲ豫期シテ普通天
候ナラバコウト増産ト云フ言葉ニトラワレテ居ルト不良天候ノ爲ニ減
産スルオソレガアルノデアリマス、普通ナラバ豊作不良ナラバ減收ス
ルコレヲ自然ノ現象ダトスルコトハ早計デアリマセウ、昨年位ノ天候
デアレ程迄減收シタコトハ残念ト存ジマス、天候ノ不良ハ技術ヲモツ
テ補フコトガ大事デアリマス、ドウシテモ人ニ對スル考ヘガ必要デ農
産技術ヲ興ヘル必要ガアリマス、夫レニハ技術者ノ努力モ必要デアリ
篤農家、精農家モ用ユル事ガ出來ル、昭和九年ノ凶作年ニ青森縣ニ反
當リ四石ノ收穫シタモノモアツタ程デアルカラ各位ノ努力ニモ不拘減

收ヲ見タノハ其處ニ原因ガアツタノデハアルマイカ、現在ハ食糧増産
ハ緊急デアリマス、大東亞戰ニ際シテ一段ト其ノ緊要サガ増加シテ居
リマス、南方チ云フ事ハ黙ツテ居リマス、東北地方ハ特ニ考慮ヲ要ス
ル次第デ他ノ地方ヨリ一段ト高クナツテ居ルノデアリマス、本年ハ他
迄努力シテ天祐ニ恵マレテ増産ノ目的ヲ達スル機曾サンモ御努力ヲ稱
願ヒスル次第デアリマス、縣ノ實際ノ衝ニアタツテ居ル方ニ實情ヲ承
ハツテ充分増産ニ勵ミタイト思フ次第デアリマス

東北局長 次ニ農産課長ニ御願ヒ致シマス
農産課長 イヅレ農政局長ヨリ御挨拶ガアリマスガ出席迄中ツギニ感
ジタ事ヲ一言由シ上ゲタイト存ジマス、昨年ノ冷害ハ青森、岩手、宮
城、福島ノ四縣デアリマシタガ氣象狀況ノ不良ハ昭和九年以上デアリ
マシテ其ノ結果今日迄實施シテ來マシタ冷害防止ノ研究事項冷害防止
施設ハ考ヘナホシテ再出發シナケレバナラント存ジマシタガ遺憾ナガ
ラ昭和十七年度ニ實現スルニ至リマセンテ東北地方ニ甚ダ濟マナイ氣

持デ居リマス、今後地元ノ方ト東北局ノ御支授ヲ得マシテ昭和十八年
度ニアル程度實現セシメタイト熱望シテ止マナイ次第デアリマス、現
在ヤツチ居リマス海洋氣象關係デアリマスガ専門家ノ談ハ東北ハ悪ク
ナク平年ノ見透シトノ事デ實ハ安心シテ居ツタノデアリマス、或ガ六
月ハ低溫寒照^{其ノ時}一時回復シタガ七月八月ハ不良デアリマシテ八月ノ海
洋調査ニヨリ始メテワカツタ機ナ次第デアリマス、經費ノ關係デ三月
以後ズツト置イテ調査スルノデ其ノ間ガ全然不明ナノデアリマス、八
月ハ海水温度ガ以外ニ低ク三月迄ハ平年ヲ豫想サレマシタノガ非常ニ
悪ク海水温度ガ低下シタ理由モ何時低下シタカ調査ガナイノデワカラ
ン機ナ次第デアリマス、兎ニ角アル時期ニ低下シテソレガ影響シテ凶
作烈ノ氣象トナツタ事ハ間違ナイノデアリマス、其ノ間ニ颱風ガ東北
地方ヲ通過シテ其ノコースヲ追テイタクツモ通テ水害ヲウケルニ至ツタ
ノデアリマス、シカシ海水ノ温度ノ低下カ原因デアアル様ニ結果カヲ見
ルトソウ思ハレルノデ海水温度ノ繼續的調査ヲスル必要ガ認メラレマ

スガ其ノ原因ヲ確カメテ一日モ早クツキトメテ稲作ノ計畫ヲ樹テル必
要ガアリマス、コレニハ相當大ガカリノ計畫ヲ樹テ日本ノ科學ノ名譽
ニカケテモ一日モ早ク實現セネバナラント存ズル次第デアリマス第二
ハ各縣ノ防止研究事業デアリマスガ昨年ノ冷害ノ状況カラ見マシテ水
稻品種ノ適性ト云フ事ガ考ヘラレルノデアリマス、低溫寒照ニ對スル
耐抗性ヲ研究セネバナラント考ヘ、モ少シ經費ヲカケテ耐抗性ノ品種
ヲ育成スルコトガ肝心ト思ハレマスガ現在デハ少ナイ人ト金トデハソ
レモ充分ニ出來ナイデ居リマス、シカシコレハ海洋調査ヨリ手輕ニ出
來ルコトデアリマスカ是非ヤツテ見タイト考ヘテ居ル次第デアリマ
ス、第三ハ冷害施設ノ徹底デアリマス、此施設ハ昭和九年昭和十年カ
ラ實行サレテ居リマスガ未ダ充分普及徹底ハ致シテ居リマセン昨年ハ
ナル程低溫寒照ハ酷シカツタノデアアル地方デハ助ケルコトハ出來ナカ
ツタデアロウガ又一面ニハ餘地ガアツタ様ニ思ハレル、一例ヲ申シマ
スルト淵床苗代ニ就テハ儘カデアアルガ本省カラ助成金ヲ出シテ居リマ

ス、技術的ニハムツカシイ點モアルガ形々ケノ温床苗代ヲ作ツタガ實
驗ハヤラナイノガ多イノデアリマス、昭和十年以來實施シタ温床苗代
ガ今般細碎ツテ居ルカヲ見マスト判然スルノデアリマス、尤モ非常ニ
良イ處モアルノデアリマス昨年高田耘平サンガ觀察カラ歸ヘラレ温床
苗代ハ駄目ダトノ事デアリマシタガ先生ガ歸ツタ地方ハ效果ヲ懸ゲ精
ナカツタ地方デアリマス、一ツノ事例トシテ申シ上グルノデアリマス
觀察シテ見マシタガ温床苗代相當高イ技術ヲ要スル程ニ思ハレマス、
シカルニ温床苗代ノ必要ナ地方ハ尠シテ技術ガ低イ其處へ徹底セシメ
ルニハ普通ノ事デアリマス、技術者ガ夫々分擔シテ徹底的ニ指導セネバナラ
ガナイノデアリマス、技術者ガ夫々分擔シテ徹底的ニ指導セネバナラ
ント存ズルノデアリマス、指導者ガ温床苗代ヲ見タ事モナイデ紙上デ
見テヤルト云フ様ナ事デアリマス、有数歩合ガ低イノハ當然ノ事デ之レハ助成
金ヲトリ良イト云フ事デアリマス、技術的ニ計畫的ニ徹底セシムル必要ガア
ルト考ヘル次編デアリマス、從來ヤラナイ技術ヲ與ヘルニハ努力ガ必

要デ縣廳ヤ農會バカリデナクアラユル技術者ガ體驗シテヤル必要ヲ痛
感致シマス、防止兼勵ニハ實際ノ指導ガ必要デアリ温床肥料追肥通り
一週ジャイケナイト思ヒマスカラ今後充分ニ研究ノ上生産力増進ヲ圖
願スルニ際シ効果ヲ懸ゲルニハ一段ノ努力ヲ御願ヒスル次第デアリマ
ス、昨年ノ冷害ニ際會シテ感シタ事ヲ申シ上ゲタ次第デアリマス
農政局長 瀧レテ般ニ相濟シマセン私共ノ考ヘテ居ルコトハ農産課長
カラ申シ上ゲマシタノデ重ネテ申シ上ゲマセン、増産關係ニツキマシ
テ少シク細碎致シタイト存ズル次第デアリマス、本年ノ増産ハ前年同
様デアリマスガ食糧ノ増産ニハ最善ノ努力ヲ盡シタイ考ヘデアリマス
部面ニ依ツテハ東北局ニモ努力サレテ居リマスルガ全國的ニ見マシテ
種々ト考ヘネバナリマセンノデ本日各位カラ充分承ハリマシテ相協力
シテ官民一致目的ヲ達シタイト考ヘマス、東北方面ノ受持ツ農作方面
ニ詳細タル基礎ヲ與ヘタイト存ズル次第デアリマス
東北局長 瀧ノ方ヘ申シマス、農政委員ノ四ツニ付イテ細碎ヲ願ヒマ

ス、昨年ノ稲作ニ依ル冷害カラ見テ稲作ノ新況モ細診シ下サイ尙東
北興業カラモ見テ居ラレマスカラ御事ノ基ガアリマシタラ又東北興
業モ細診ネガアリマシタラドウゾ御事ニヒマス
新島縣 寺尾牛生ニ御事ニ致シマスガ昨年ノ御事會ニ承ハツタ事デア
リマスガ稲作ノ耐抗品種ガ出來タトカデアリマシタガドウデアリマ
セウカ

寺尾牛生 將來稻熱病ニ良イ品種ヲツクツテ稲熱病ヲ完絶シタイ野望
ヲ持ツテ研究シテ居リマス現在ノモノハ南方品種デ免疫的ニ強イノデ
アリマス、ソレト日本ノ品種ト配合シテ作りタイト二十年來考ヘテ來
テ居リマスガ系統ガ違フ爲ニ二代三代テハ出來ナイデ居リマス所ガ幸
ニシテ愛知縣ノ試驗場デ作り得タト思フモノガアルノデアリマス、シ
カシソレハ日本品種ト容易ニ配合サレル基礎ガ出來タト云フダケデ現
實ノ問題デハアリマセン、愛知縣ニモ選出ニモアルモノデソレヲ材料トシ
テ目下實現ヲ期シテ居リマスガ二年ヤ三年テハ不可能デアリマス、何

時迄モ稲熱病ニ苦シメラレテ居ルノハヤリキレンノテ是非成就セネバ
ナラント折角努力シテ居リマス、現在デハ陸羽三十二號ヨリ強イモノ
モアリマス、耐冷性カラ更ニ耐冷性ノモノヲ作りタイト考ヘテ居リマ
ス、豊林十六號ハ稲熱病ニハ強イ性質デ種ガ下ランカラ驚クガ案外收
穫ガアルモノデ品種ニ依リ異なる種類ニ依リ被害ガ違フノデ配合ヲ充
分ニシテ行カネバナラント考ヘマス、天ノ配樂ハ中々難カシク農家ガ
品種ニ對シテ其ノ考ヘガナク少シデモ天候ガ極クトスグ品種ヲ考ヘル
ソレデハナニモナラン、如何ナル研究モ農家ニ徹底セネバナニモナラ
ン農政トシテ合理的ニ進メテ行カネバナリマスマイ、授産ト指導兩方
トモ必要デ授産ニノミ依存シテハナリマセン指導大切デアリマス、此
頃ニ充分力ヲ注イデモライタイト存ズルノデアリマス
東北局長 此頃デ養食ニ致シマス、一昨一寸進ギタ頃カラ再會致シマ
ス

東北局長 ソレジヤ午前ニ引續キ検査ナリ御意見ナリ御覽シ下イ、
技術者ノ方モ御覽シ下サイ

宮城縣 牛糞農産課長ノ御覽シニ依リマス、ト海洋調査ハ一月二月ガア
ツテ控ノクトノ事デスガ水産試験場デハ毎日カ調査シテ其ノ資
料ガアルソウデスガ、御覧デモ良イガ、經濟部長ニ知らセテ、後クト折上
良イト思ヒマスガ如何デセウ

寺尾課長 ソレハ海洋調査テ限ラレタモノデセウ

宮城縣 寺尾牛生ハ最近施肥ニ關シ有益ナル研究ガアル様デスガ御覽
シ願ヒマスマイカ

寺尾課長 ソレハ各層施肥ノコトデハ淺層施肥ニ對スル深層施肥ノ施
肥ハ土ニマゼネバナラヌガ、確實ニハ上カラカケレバ良イ、肥料ハ淺ク
テモ良イト考ヘラレテ居ツタノデアリマス、ソコデ上代ニマカレテ僅
カニ二センチカ三センチシカ施サレナイ、ソレデハ弊害ガ生ズルノデ
アリマス、此上代ニ施サレタ肥料ハ水ニ流サレテ隔ニ寄ツテ仕舞フ、

水ノ浸透ガ良イト肥料ノ供給ガ良イガ浸透ノ悪イ處ハ酸素ガ缺乏スル
確實ガカタマルト熱作用ヲ起シテバクテリア作用ヲ起シテ悪クナルノ
デアリマス、モウ一ツ淺層施肥テ確實ガ固ルト酸素ノ爲ニ硝酸態トナ
ル、コノ硝酸態ガ浸透ル、スルト下ニ酸素ガナク硝酸態カラ酸素ヲウ
バフトガス體ノ窒素ニナリ空中ニ逃ゲテ仕舞フ結果トナリマス、上層
ダケニ肥料ヲマクト肥効作用ヲ起シテ、稻ノ用ヲ爲サナイコトニナル、
ライスノターニ依ツテ實驗スルト浸透ニ依ル逸過作用ガ良クワカリマ
ス、デアリマスカラ肥料ハ上代ニヤラナイデ荒代ノ時ヤツテ耕起スル
ト全體的ニ施肥サレルノデ施肥ガ有効的ニナリマス、試驗ノ結果ニ依
リマス、ト二割位耕ガアル様ニ思ハレマス、シカシコレハ水利ノ便ガ悪
イ處ハ困リマス、耕起シテ水ガカカラスト肥料ノ効果ヲ減少致シマス
カラ此點注意ヲ要シマス、イヅレニシマシテモ、耕起、技術、指導ノ三
原則ガ大切デコレヲ看却スルトイケマセン、肥料上ノ重大問題デアリ
マスカラ充分考慮シテ頂キタイト存ジマス

東北局長 肥料ノ問題ニ關連シテ昨年ノ關係ニ就イテ御覽シテ願ヒマ
ス

寺尾局長 品種ノ問題ヲ御覽キ致シタイト思フガ品種統制ハ青森縣ハ
今年自便ガアリマスカ

青森縣 農民ノ自覺ト吾々ノ指導ニ依~~テ~~ネバナランノデスガ實行ノ
問題トナルト容易デアリマセン農民ハ昨年ノ傷手ヲ餘程自覺シテ居ル

カラ今年ハヤリタイト思ヒマスカラ御助成ヲ御願ヒ致シマス、冷害ト
増産トノ關係性ニ關係ガアリマシテ中々ムツカシイト考ヘテ居リマス

寺尾局長 増産ハ減收防止ガ第一デアツテ其ノ上積極的ニ方法ヲ講ズ
ルコトガ大切デアリマセウ

青森縣 農林省ノ強當ニ迫スルニハ減收防止ダケデハ目的ハ達セラレ
ナイト考ヘラレマス

秋田縣 私ノ縣ハ昨年幸ニ冷害ヲ免レマシタガ本年ハ杞憂ヲシテ居ル
事ガアリマス、今年ハ雪ガ非常ニ多イ、雪ノ多イ年ハ豐作ダト云ハレ

テ居リマスガ中央デモ良イト云ハレル事ハ精神的ニ影響スルコトハア
リマスマイカ、氣候ガ落チルコトヲ恐レルノデアリマス、積雪ト作柄

ニツイテ科學的ニワカル所ガアルノデアリマセウカ、其ノ點考慮ノ上
細發意ヲ願ヒタイト存ジマス、尙昨年ハ増産ノ目的ヲ達シマシタガ秋

田地方ハ赤ン坊ノ死亡率が大イノデアリマスガコレハ出稼終ノ爲モア
ルカモシレンガ食糧ノ關係モ有ルカト思ヒマス食生活ニ潤フ點ヲ東北

與業デ何カ講ゼラレナイデセウカ

東北局長 雪ト寒ト作柄ノ關係ハ昨年ハ其ノ因果關係ハワカラント云
フ事デアツタ様デス

専政局長 雪レガ云ツタカワランガ科學的ニハワカラナイト思フ、
單ナル事シデアリマセウ、感~~ジ~~ノ問題ヲ談シタノデアロウト思フ

秋田縣 増産ノ目的ヲ達シタ縣ハ參觀シテ精進的ニ心構ガ落チルカラ特
別ノ方法ヲ講ジテ頂キタイ、今年ソウナルト苗代ニモ影響致シマスカ
ラ

農政局長 良ク考ヘマセウ

宮城縣 昨年種籾ヒ致シマシタ時、殊事情デアリマスル灌漑用重油ノ増配ハ農林省ノ種配補ヲ得テ豫定量ヲ頂キマシタガ爾後ガ多ク排水用ニナツタ様ナ次第デアリマス、今年モ同様頂イテ感謝シテ居ル様ナ次第デアリマス、今一ツ技術員ガ少ナク指導ニ困難デ是非技術員ヲ配置シテ頂キタイ、ソレモ百五十人増配シテ下サイマシテ有難ク存ジテ居リマス、縣デハ道場式ニ練成致シマシテ精神的ニ訓練シテ配置致シテ居リマス、農業技術員ニツイテ訓練ヒシタイ事ハ増産管轄ノ管ニ部属ヲノグツテ見ルト技術員ハ非常ニ熱心デアリマス、篤農家ヲ招テ會ヲ催シタガ爾ノ下ル様ナノガアリマス、技術員ハ分擔區域ヲ午前三時頃力ヲ懸ツテ居リマス浮塵子ノ早期発見ニ付イテデアリマスガ田ノ真ン中ニボツト新ノナイ感ガアリマシタノデ其ノ譯チ聞キマスト浮塵子ノ發生シタノチ技術員ガ発見シテ燒却シタノダソウデアリマス更ニ技術員ノ苦心スル感ハ農村ハ經驗ダケデ技術ヲ拒ム精神ガアリマス、ソレ

ヲ脱キ伏セルニハ非常ノ苦心ガ要スルノデアリマス、從ツテ農村ノ技術員ノ勞苦ヲ見テヤラネバナラント考ヘラレマス、代表的ナモノヲ集メテ座談會ヲヤツテ苦心談ヲ聞クト冷害ヲクヒトノ事事實モアリ、ナントカシテ其ノ苦心ヲ見テヤラネバナラント考ヘラレマス、第一線ノ人ヲ中心トシテ指導スル必要ガアルト考ヘマスノデ當局デモ考慮シテ頂キタイ、一生懸命ヤツテ居ルコレ等ノ人々ヲ記憶シテ頂キタイト御願スル次第デアリマス

農政局長 勿論考慮シテ居リマス、ソレ等ハ出來得ル限り表彰シタイト考ヘテ居リ精神的ニ何かヤル必要ガ認メラレマス、縣廳廳監デモ考ヘテ居リマス

寺尾總長 山口縣デハ技術員七百人許リ甚々感デ難演チシタ事ガ御座イマスガ功勞ノ有タモノ三十名^及實行組合ニ知事カラ表彰狀ト金一萬ヲ與ヘラレマシタガ技術員バカリデナク其ノ式場ニ町村長モアツテ式ヲ行ハレタ事ハ非常ニ良イト思ヒマシタ、精神ソレカラ政策デアリマス

縣ハ知事ガ陣頭ニ立ツ様ニ町村長ガ町村ノ陣頭ニ立タネバナラント考
ヘラレマス

宮城縣 四月三十日ニ總選舉ガアリマスノデナルベク人ヲ集メルナト
關係力ヲ盡シガアリマシタガ時恰モ増産ノ運動季節デアリマス、宮
城デハ警察部ヘ圖策ダカラト申シ置キマシテヤル豫定デスガ農林省、
内務省連絡シテ問題ノ起キナイ様ニシテ頂キタイ

農政局長 善支ナイト思ヒマス、大イニヤル必要ガアルト考ヘマスノ
デ一ツ連絡スル様ニ致シマス

農産課長 堆肥ノ購置チヤルニ困ツテ居ル處ガアル様ニ聞イテ居リマ
スガ

農政局長 ソンナ事ハ善支ナイ

秋田縣 農村婦人ハ農作改善ニ力ガアルノデソレニ力ヲ入レテ行クコ
トガ必要ト思ヒマス、コレハ秋田縣ダケカモ知レマセンガ婦人ガ非常
ニ働ク感デアリマス、コレハ東横範村ノ談シデアリマスガ婦人ヲ勞働

ノ機械ノ様ニ思ツテ働キノナイモノハ難線スルト迄云ハレテ居リマス
ガ婦人ノレベルチ上グル必要ガアルト考ヘラレマス、農村婦人ニ目チ
ツケテ頂キタイ、農業技術バカリデナク文化一般ノ向上チ圖ツテ實ヒ
タイト存ジマス

農政局長 ハツキリワカリマセンガドウモ願キ捨テナランコトト思ハ
レマス、進ンデ考ヘネバナラヌ事デアリマセウ

秋田縣 畜生の關係ハ充分考ヘラレテ居ラヌト思ハレマス

農政局長 養蚕士ト一致シテヤツテ居リマスカ

秋田縣 動物タンパクガ殆ド使ハレナイデ米ニ依存スルノデ養蚕關係
ガ非常ニ惡イト考ヘラレマス

農政局長 総合的ニ研究スル必要ガアリマセウ、單純ニ行カヌ、或ハ
宗教的關係ガアルノデハナイデセウカ

秋田縣 別ニ宗教的關係ハナイ様デス、四足モ喰ベマスカラ

農政局長 合理的養蚕ニ付イテハ充分考ヘネバナリマスマイ、日本全

體カラ見テ動物タンバクハ少イノデ兎チヤツタ良イト思ハレルガソ
レモ行カヌトスレバ魚ト魚粉チヤツテハドウカ、油デモ配給サレレバ
良イガ畑作モ相當アリマスカ

秋田縣 養蠶ハ少ナイ極デス、供出ノ爲ノ増産トシテ指導シテ居リマ
スガ中々甘ク行キマセン

寺尾場長 加長家ト云ハレルモノニ家族チ牛馬ノ如ク酷使シテ居リ其
ノ爲ニ細君ガ死ンダ、其ノ原因ガ養蠶ノトレナイ爲デアツタト聞イテ
居リマスガ綜合的指導ガ行届カ又爲デアリマセウ

秋田縣 農村婦人對策チ充分考慮セネバナリマセン、新シイ技術チヤ
ロウトスルト婦人ガ反對シテ困ル農村婦人ニ呼ビカケル事ガ良イト思
ハレマス

農政局長 ソレハ非常ニ良イ事デアリマスガ、ドウ云フ風ニスルカ考
ヘテ見マセウ

寺尾場長 三重縣デハ男ハ十六才ー三十五才女ハ十五才ー三十五才迄

全部訓練スルコトニナツテ居リマス、事故アルモノハ代リテ出ス様ニ
シテ非常ノ成績ヲ遂ゲテ居リマス

秋田縣 農會ニ婦人部ヲ設ケタナラバ如何デシヤウカ
農政局長 婦人ハ家庭ト云フモノヲ考ヘネバナリマセン

秋田縣 男ハ全部出稼ニ行キ女バカリノ農作勞働デアルカラ何トカ方
法ヲ講ゼネバナラント考ヘマスガ東北興業ニハ何カアリマスマイカ
濱邊書記官 東北更新會デアツテ居リマス尤モ金ガ少イガアレニ結ビ

付ケテ見テハドウデスカ、更新會チ今少シ強化スル極考ヘテ居リマス
カラソレト懸望スル方ガ良イト存ジマス

東北局長 縣ノ衛生課、社會課ト相商シテ見テハ

秋田縣 連絡シテモ金ガ少イノデドウニモナリマセン

東北局長 山形縣デハドウデスカ

山形縣 調査モシテ居リマセンガ區別ハアリマセン

岩手縣 冷害地農作物増産カラ見マスト技術ノ應用ハ大切デアリマス

カラ技術ノ整備充實ガ第一ニ必要デアリマス、其ノ爲ニハ農村技術員ノ優秀ナモノヲ大ク養成シテ技術ノ普及徹底ヲセネバナラント考ヘラレマス、然ルニ町村ノ状態ヲ見マスト優秀技術員ガ難レテ行ク傾向ガアリマスノデ養成施設ノ徹底ト待遇ヲヨクスル必要ガ感ジラレマス、ソレカラ労働力ノ不足ガ深刻デ移動労働ノ募集ニ困難ヲ來シタノデ山勞力ノ吸收青森縣ト労働ノ交換ヲヤツテ成績ヲ擧ゲマシタカラ今年ハ大規模ニ雇ヒタイト存ジマス、増産ノ一ツノ障害デアリマス例ノ差シ苗代デアリマスガ農民ノ考ヘガ指導者ノ云フ事ヲ腕カナイモノガ二分ノ一モアリ優秀ナモノハ表彰モシテ居リマス、今後徹底的ニヤリタイト存ジマス、次ニ岩手縣ノ特別ノ事デアリマスガ小作制度ノ問題デアリマス、水田畑共ニ刈分小作ノ慣行デアリマス、コレハ農業技術ノ徹底其他ニ支障ガアリマスノデ積極的ニ改善セネバナランノデアリマス、特ニ畑作ニ慣行ガ大イノデアリマスガ農業生産増産上遺憾ト存ジマシテ農地委員会ニ解消要項ヲ作ツテ改善ニ努力シテ居リマスガ夫レニ

依リ改善シタモノモアリマス、小作定額ヲ決定スルモノニハ影響ハ助成金ヲ出シテ其ノ徹底ヲ期シテ居リマス、コレハ特殊ノ事デアリマスガ技術ノ向上ニ關連シテ申シ上ゲタ次第デアリマス
農政局長 勞力問題ハ農會ガ骨折ツテ居リマスガ一層活躍セシメタイト存ジマス

東北局長 米作ヲ中心ニ調整シ願ヒマス
山形縣 水運ノ難ノコトデアリマスガ確保ノ出來ルカドウカハ増産計畫ニ影響ガアリマス、各縣所要量ハ細細ヒ出來マセウカ、肥料大豆カス魚肥ノ確定數量ハ配給出來マセウカ
農政課長 農ノ方ハ全國所要量ガ未ダ確定マラズ必要量ノ配給ガ出來ルカドウカ判然致シマセン、急イデ見當ツケタイト思ヒマスガ出來ナイ時ハ確實ヲ代用シタイト考ヘテ居リマス、最近ノ中ニ大體ノ見當ガツクト存ジマス、大豆カス魚肥ハ最近ノ事情ヲ斷イテ居リマセン、難カスハ減ツタ様デアリマス確實ヲ配給スルコトニツキ昨日アタリ資材ノ

方デ考ヘテ居リマス

宮城縣 凶作防止ノ研究ニハ耐寒品種ノ育成^ガ必要デアルト寺尾先生ノ御膝デアリマスガ耐寒性ノ品種ガナクテハ指導上打テ行ク事ガ出來マセン其ノ耐寒性ノ品種ヲ育成スルニハ東北ノ現場デ研究シテ本^ノニヤツテ下サルナラバ東北ガ助カルト考ヘラレマス、奥羽試驗地東北試驗場ヲ擴充シテ進メテ頂キタイ、宮城縣ハ本年九十萬石ノ減收デアリマス、ドウカ品種ノ良イモノガ出來ル様御願ヒ致シタイ

青森縣 冷害ニ依ル対策ニ付キマシテハ昨年ノ冷害ニ際シテ四縣ガ寄り合ツテ當局ニ御願シタノニ御願シテアリマスカラアレチャツテ頂ケバ対策ガ甘ク行クト思ハレル、ソノ中試驗機關ノ擴充ニ付テハ青森縣ニハ藤坂試驗場ハ場長外技手二人助手三人ダケデハ充分デアリマセシカラ擴充シテ頂キタイ、仕事モ水稻バカリデナク畑作モヤツテ頂キタイ、コレハ急遽ニ擴充シ頂ヒタイト存ジマス、肥料ノ關係ハ農林省デ

地方ノ特殊性ヲ考慮シテ頂キタイ、春肥ハ加里ハ全然ナク確安ハ一割減、燐酸ハ五割減トナツテ居リマスガ青森縣ハ燐酸ノ必要地デアリマスカラ考慮ヲ御願スル次第デアリマス、縣長兼村ガ多ク困ツテ居ツタガ生産統制令ガ出タノデ運用ヨロシキヲ得バ效果ハ充分ト思ハレマスソレト同時ニ助長方法ヲ講ズル必要ガアリマス、共同耕作ハ反當十二圓ノ補助ヲ與ヘテ九十五町歩ヤツテ居リマスガ十七年度ハ補助ガナク統制令一本トナリマシタガ出來レバ引續キヤル必要ガアルト思ハレル何分ノ御配慮ヲ御願致シタイ、増産確保ノ上ニ豫算ヲ澤山頂イタガ農道耕地改良等ニ御考慮ヲ頂キタイ、労働賃銀ノ不均衡ハ充分考ヘネバナラント存ジマス、他ノ産業ハサーピスガ良イノデソチラニ流レル官民事業共ニ賃銀ノ均衡ヲ得ル必要ガアリマス、市町村農會技術員ノ費向上待遇ハ急激ニ擴充サレタ關係カラ第一級ニ指導スル技術陣ノ低下シタ傾向ガアリ農民ガ難苦スル種キガアルカラ農會等ニ依リ暫ノ向上ヲ工夫チコラサレル様ニシテ頂キタイ、コレハ全國的ノ問題デアリ

マスガ長期影響トカ養成機關トカ考慮シテ頂キタイト思ヒマス

農政局長 土地改良ノ補充トハドシナモノデスカ

青森縣 農道排水設備客土等ノモノハ勿論デアリマス、知事カラ御下
問ニ答サレタ由デアリマス

耕地課長 農道ノ問題ハ今迄豫算ガナカツタ、デアリマスガ十七年度
カラ出來ル様ニナリマシテ其ノ規定ハ近ク出來ル豫定デアリマス、區
劃整理モ出來ルコトニナリマス、根本問題デアル土地改良擴充ハ十七
年ノ補付迄ニ完成シタイト努力シ居リマス、災害復舊モ作付ニ關ニ合
セタイ考ヘデアリマス、土地改良ハ非常ニ多イノデ十七年度モ早クヤ
リタイト思ヒマス、今迄ハ六、七月ニ割當テ致シマシテ仕事ハ秋ニナ
ルノデアリマシタガ十七年度ハ一月カラ初ノテ作付迄ニ關ニ合セル様
御願シテ居ル次第デアリマス、割當以上デモ差支アリマセン、宮城縣
カラ重油ノ該ガアリマシタガ昨年ハ宮城縣ニハ二萬町歩ニ對スル分デ
今回ハ八萬町歩ノ要求ガアリマシタガ重油ハソレホドナイノデアリマ

ス、半分ハ電化シタイト考ヘテ居リマス、出來ルダケ電化シタイト思
ヒマスガモートル電線ガナク豫定通りイカナイデ居ルノデアリマス一
番關係ノ深い宮城縣カラ關係ニ來テ頂イテ事情ヲ承ハリマシタガ電化
ガ關ニ合ハヌ様様デアリマス、シカシ之レハ農林省ダケデア出來マセン
ノデ企業院ニ近イ中ニ連絡シタイト存ジマス、重油ハアトガ來ナイノ
デアリマスカラ電化一本ニ願ヒタイト存ジマス、出來ナイカラトテ重
油ハナイノデアリマスカラ其ノ意味デ指導シテ頂キタイト存ジマス
宮城縣 重油、電化等ニ付キマシテ格別ノ御配慮ヲ頂キマシテ雖有極
限イマス、コレダケ欲シイト云フ譯デナク出來ル限り重油ヲ節約スル
ト云フ考ヘデアリマスカラ最少限度ニ賣ヒタイト存ジテ居ルノデアリ
マス、來年度モ電化ニ付イテ細盡力ヲ御願致シマス、土地改良ノ問題
ハ宮城縣ハ濠田ガ多ク十町歩以上纏ツタ感ガ三萬五千町歩モアリマシ
テイヅレモ酸性土壤デアリマス、コレヲ改良スルニハ暗渠排水工事ヲ
セラネバナリマセンガソレニハ相當ノ土管ガ必要デアリマスガ愛知縣

カラ殆ド入りマセン、入ル機勢カシテ居リマスガ思フ程ニナリマセン
ノデソレヨリモ造ル方ガ良イト考ヘマスノテ東北興業會社ノ組織力ヲ
顧ツテ居リマスガ新會社企業整理ノ時代テ商工省ノ方デ難色ガアリマ
ス土管其ノモノノ品質ノ疑義ヲ懸位ガ下トナツテ居ルトノコトデ理解
ノナイ懸デ心外ニ存ジマスガ商工省ノ意志ヲ替イテ貰フ事ニハ行キマ
スマイカ、三萬五千町歩ニハ土管ガ百六十萬本カラ百八十萬本必要ト
云ハレテ居リマス、國家ノ力デ全國統制シテ賣ヒタイト考ヘテ居リマ
ス

東北局長 商工省ノドコデアリマスカ

福島縣 我ノ縣モ同様ノ状態デ困ツテ居リマス

東北局長 土管ニ付テハ東北興業ヲモ考ヘテ居リマスカラ組織懸ヒタ
イ

山中理事 只今土管ノ難ガアリマシタガ私ノ方トシテハ山形ノ新庄地
方ニ良質ノ陶土ガアリマスノデ其ノ利用ヲ計畫ヲ致シマシテ先般農林

省ノ豫備ニヨリ進捗致シテ居リマス磁子ヲ本トシテ窯業會社ヲ作ル計
畫ヲ東北興業デ八十萬圓ヲ投資致シマシテ福島ノ會津地方山形ノ地元
カラモ出資ヲ致シマシテ磁子會社ヲ創立致シマシタ、工場ハ新庄ノ廠
ニ移近シタ處デ敷地ノ買収ヲ致シマシタ、陶土ハ約二百萬位ノ工場ノ
廠ク近イ處ニアリマスノテ便利ノ處デアリマス、農林省ノ特別ナル理
解アル種取換テ商工省カラ資材モ得ラレ足ラヌ勝チナガラ暫ドケヲ待
テ工場建設ニ着手スル豫定デアリマス、總クトモ今年ノ九月迄ニ完成
サセタイト存ジテ居リマス、能力ハ三百萬本デアリマスガ農林省デハ
千萬本入ルトノ事デアリマスガ不取敢三百萬本ヲ造ル豫定デアリマス
格別ノ補助助ヲ預キタイト存ズルノデアリマス

農政局長 我ノ方デモ良ク考ヘテ見マセウ

東北局長 米ノ次ニ麥大豆其ノ他ニ付テモ補助懸ヒマス

農政局長 麥ハ相當以上ニ出來マスカ

宣城縣 是非ヤルツモリデアリマス

長敷局長 増産シテモ出テ来ナケレバ困ルノデスガ秋田ハフイマシタカ

秋田縣 フイマシテモ青森縣間ハ困リマス
東北局長 麥ノ作柄種和ハドウデスカ

長敷局長 私ノ家へ手紙ガ来マシテ馬鈴薯ガ産ルガ供出命令^ガ来ナイノ
デ出シタクテモ出スコトガ出来ナイトアリマスガドウデスカ青森縣ノ
廣瀬局長 ノアル様ドウデス

青森縣 ソンナ事ハナイ様デスガ良ク獲ベテ居マス
宮城縣 麥ハ昨年ノ冷害關係カラ秋ノ收穫ガ遅レ從ツテ播種モ多ク
テ發芽ハ良クアリマセン、而シテハ補償サレタ面積ダケハ播種サレマシ
タガ他ノ縣ハ如何デセウカ

長敷局長 關西以西ハ平年並デアリマスガ北陸地方ハ暖クテノビ過キ
テ居リマス東北ハ大豊イノデアリマスマイカ
岩手縣 播種期當ハ三萬三千四百町歩デアリマスガ播種ノ狀況ハ三千

二百六十町歩デ計畫面積ヨリ少シ不足シテ居リマス、氣象ハ難觀デ耐
寒性品種モ良ク作柄ハ普通デアリマス、大豆ノ點ハ國有林ヲ開墾シテ
増産ノ計畫ヲシテ居リマス無立木地ノ國有林ハ二千四百町歩アリマス
ノチ營林業ニ交渉中デ悉畑ノ増産ハ開墾ヲ致シテ居リマス

長敷局長 割當面積ハ三萬七千町歩デアリマスガ播種面積ハ三萬八千七
百町歩デ増分増加シマシタ、播種時季及天候モ良ク順調トナツテ居
リマス、麥圃整理モ捗ドリコレ等モ播種サレマシタガ雨ガ少ク發芽モ
遅レタ傾向ガアリマス、灌漑ハ少シ異イガ平均シテ平年作ニ近い狀況
デアリマス

青森縣 割當面積ハ一萬三千六百八十町歩デ播種ハ十一月末日ノ面積
ハ一萬二千八百五町歩デ計畫面積ヨリ減少シマシタ、播種狀況ハ九
月下旬ニ四十五%デ播種リハ少シ遅レマシタ、成育ノ對策トシテ副核病
一覽表檢査期ヲ行ツテ防止シテ居リマス、積雪前ハ天候モ適順デ日照
時モ多ク晴雨モアリ順調デ例年ニ比シ良好デアリマシタガ積雪モ多ク

秋田縣 割當面積ハ六千八百八十九町歩デ糖種面積ハ六千五百九十三町歩其ノ成積ハ糖定計糖ノ九十五%トナツテ居リマス十月五日以後糖種ノ分ハ糖分数量減收ノ見込デアリマス、糖種整理ノ跡作ハ手不足ノ爲週レマシタガ天候關係デ成育ハ悪クナイト存ジマス、現在ハ糖種期デアリマスカラ例年ノ如ク糖種數モ良ク行ハレテ居リマスカラ平年作概ガ糖種サレテ居ル次第デアリマス

秋田縣 割當面積ハ三千七百町歩デ糖種面積ハ三千七百町歩デ割當以上ニ糖種サレマシタ、糖種期ハ海陸地方ハ八月末其他モ糖種糖種ガ多ク非常ニ良好デアリマス、糖種整理モ糖種期デ糖種作ハ糖種ト見ラレマス農政部長 今年ハ糖種子ガ良ク全般的ニ八九十八%ノ糖種付チ見マシタガコレカラ先キノ手當如何デ獎勵ハ許サレマセン、非常食糧對策カラ良マスルト米ガ五千五百石不足ラスル、其ノ補充ノ爲ニモ最全ノ努力チシテ居リマスガ前途ドウナリマスカ麥ノ増産ガ非常ニ大慕デアリ

マスカラ今秋モ糖種力チ斷フ處デアリマス
東縣農水産部長 農具ノコトチ少シ申シトゲマス、東北 向ノ農具チ製作シタイ爲ニ秋田ニ工場チ設ケ更ニ酒田山形ニモ工場チ設ケマシタガ三工場ノ生産量チハ廣ク出ス餘力ガナイ狀況デアリマス、技術者ノスタツフモ糖種ハズ生産ガ使用量ニ伴ハナイノデ三工場チ合併シテ増産ト新農具ノ生産チ加ヘマシテ發展セシメル計畫デアリマス、縣ノ糖種期ノ方ニ連絡スル爲ノ感今迄其ノ點ガ缺ケテ居リマシタ爲ニ生産品ガ東北ニ伸ハレナイデ糖種ニ伴ハレテ居ル糖種次第デアリマス、コレ等ハ是正セネバナラント考ヘテ居リマス、吾々モ今秋糖種チマシテ連絡申シ上ゲマスカラ宜敷糖種考案チ願ヒマス、糖種農具ノ改善整理ト共ニ優秀ノモノハ参加シテ賞ヒマシテ糖種マツタモノト致シタイノデアリマス
東縣副知事 社業ニ糖種チマシテハ日頃糖種力チ頂キマシテ糖種有存ジマス、農具ニシテモ土糖種ニシテモ東北ハ糖種ガ主デアリマスカラ充分力チ注ガネバナラヌト考ヘテ居リマス、肥料ノ如キモ糖種ノ重大使命

デアルト田ハレマスガ主權ノ爲出來ナカツタノデアリマスガ日東化學
ハ東興ノ參加ニ依リ東北振興ノ爲ニ出來タモノテ農産肥料發安モ全能
率ヲ提ゲテ増産ニ努力致シテ居リマス、加化學ノ新機ヲ引受ケマシテ
日本肥料モ參加シテ強化学肥料計畫ヲ目下進行中デアリマス、ヤガテ
農産ガ改良サレテ行キマズレバ多クノ發安ガ出ルコト存ジマス、土
管ノ問題ハ農産用土管ダケデハ採算ガトレナイノデスガシカシ農産生
産ニハ必要缺クベカラザルモノデアリマスカモ通常リ三百萬本ノ製
ヲ目指シテ着手シテ居ル次第デアリマス、農機具ノ現在ハ製品ガ地
方ニ使ハレテ居ルモノガ多ク東北地方ニ使ハレナイ事ハ遺憾デアリマ
ス、東北ニ使ツタ餘リヲ他ニヤリタイト存ジテ居リマスコレ等ノ點ニ
付テ細理無キ點ヒタイノデアリマス、使用後ノ便不便ヲ承ハリマシテ
改良致シタイト存ジマスカラ何分ノ細理無キ點ヒマス、農地開發費
ト密接ノ連絡ヲ爲マシテ心算イトシテハ開發シタ土地ヲ利用モシタイ
關心ヲ持ツテ居リマス、特に馬鈴薯、玉蜀黍等ヲ増産シテアルコイル

ノ原料ト致シタイノデアリマス、更に南方ノ余剩物資ノ輸入ヲ圖ツテ
アルコイルノ増産ニ務シタイト存ズル次第デアリマス、尙食糧ノ關係
上大切デアル水産事業ハ八戸ニ東北振興水産會社ヲ作りマシタガ創設
以來非常ノ成績デアリマシテ東北振興ノ船ガ儲ヲ積ンデ諸々入港スル
船新艦ニ出テ居ルノデアリマス、今後尙南方ニ漁場ヲ開拓スル必要ガ
アリマスノデ東北振興水産ガ中核トナリマシテ事業ヲヤル機ニ考ヘテ
居ル次第デアリマス、尙畜産ニ付テハ東北畜産會社ヲ創設致シマシテ
飼育増産ニ努力致シテ居リマスガ各位ノ細理無キ點ヒタル感ガ多イノデ一
層ノ細致力ヲ細心ヒスル次第デアリマス
東北局長 外ニ細心イマセンカ、ソレデハ今日ハコレデ細心致シマス
細心竹中細心ニ細心ヲ爲マシテ細心ニ務有細心イマシタ。

東北地方食糧増産懇談會出席者

昭和十七年三月六日於法曹會館

農林省

農政局長

農政課長

農産課長

特産課長代理

耕地課長

畜産課長代理

農林省農事試験場長

官城縣

岸

磯

森

坂

津

田

寺

有

鈴

古

池

田

口

口

尾

松

木

田

宇

良

公

豐

英

三

教

清

一

喚

郎

一

郎

博

昇

武

平

縣島縣

經濟部長

農林技師

岩手縣

經濟部長

農林技師

青森縣

經濟部長

農林技師

地方農林技師

農林技師

全農林技師

阿

野

藤

大

和

高

藤

阿

阿

唐

三

部

村

田

澤

久

田

橋

澤

鳥

部

唐

三

末

萬

利

幸

鐘

一

祐

貞

健

盛

三

吉

作

作

吉

雄

吉

郎

二

雄

吉

夫

司

山形縣

農水産課長

大久保

豊太郎

地方農林技師

佐藤

富士郎

秋田縣

經濟部長

鈴木

榮二

産業課長

黒木

利克

農事試験場長

山口

巖太郎

地方農林技師

小林

虎太郎

地方農林技師

佐藤

信藏

農林主事補

大橋

並太郎

東北興業株式会社

副總裁

桑原

幹根

理事

山中

鏡治

企畫部長

安田

吉助

内閣官北局

農水産課長

橋田

菱一

局長

宇都宮

幸平

書記官

渡邊

男二郎

全

戸嶋

芳雄